

## 第1回委員会要旨

- ・開催日時：平成16年11月7日(日) 14:00～16:30
- ・場 所：ピアザ淡海 204会議室
- ・参加人数：委員9名、河川管理者4名、傍聴者6名

### 1) 決定事項

- ・委員各位に委嘱状を交付し、正式に河川保全利用委員会委員として任命しました。
- ・委員会規約(案)について、了承を受けました。
- ・委員長として竺委員を、副委員長として寺川委員を選出しました。

### 2) 審議の内容

河川管理者より委員会の役割について説明を行いました。

- ・許可が下りた後の事後チェックに関し、委員会の関与の仕方について違反等があれば河川管理者が責任を持って、各許可受け者に対して指導をしていきます。

準備会委員より、準備会の経緯説明がありました。

- ・委員構成で利害関係者が含まれていない点について  
今回、直に利害に関与する者は委員として入る形とはしていない。  
必要に応じて地元代表者によるワークショップや専門部会という形での意見聴取、反映を考えている。

河川管理者より管理河川の概要説明を行いました。

1. 瀬田川
2. 野洲川
3. 草津川

- ・公園の定義に関し、散策路も含まれるのかという点について  
市町村が公園として占有しているものを指します。散策路は不明確です。
- ・河川断面に関し、野洲川の中州について  
定期的に河川横断測量を実施して、安全に流れるかどうか確認しています。
- ・河川敷に対する植生などの調査について  
河川水辺の国勢調査を平成2年より実施  
「生物調査」「河川調査」「河川空間利用実態調査」を行っている。
- ・上記調査など必要な資料について提供してほしい  
必要な資料は随時、用意していきます。

各委員より「川の考え方」について述べられました。

以 上

## 傍聴要領(案)

河川保全利用委員会(琵琶湖河川事務所)

委員会を傍聴される方は、次の事項を遵守してください。

### 1 傍聴する場合の手続

- (1) 委員会を希望される方は、委員会ホームページ(<http://biwako.kasen-hozen.jp>)で事前に申し込みを行うか、委員会の開催予定時刻までに、会場受付で住所および氏名を記入してください。
- (2) 傍聴希望者が定員を超えた場合には、先着順とします。
- (3) 傍聴の許可を受けた方は、係員の指示に従って、委員会の会場へ入場し、所定の席に着席してください。

### 2 傍聴する際の遵守事項

委員会の傍聴に際しては、次の事項を遵守してください。

- (1) 委員会の開催中は、静かに傍聴すること。拍手その他の方法により賛成、反対等の意向を表明しないこと。
- (2) 会場の秩序を乱したり、委員会の支障となる行為をしないこと。

### 3 会議の秩序の維持

- (1) 2の事項を遵守するほか、会場内では、係員の指示に従ってください。
- (2) 遵守事項に違反した場合には、注意を促します。なお、注意に従わないときは、退席していただくことがあります。

### 4 傍聴者の発言について

委員長が必要と認めた時は傍聴者発言の機会を設けますが、それ以外のご発言につきましてはご遠慮下さい。

### 5 その他

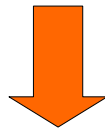
上記以外に関することは、委員長の判断とします。

# 河川敷地占用のあらまし

琵琶湖河川事務所

## これまでの河川敷地占用

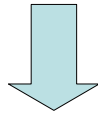
- 戦前からの基本方針  
河川敷地は本来、洪水を流下させるものであり、  
治水上、支障のあるものは許可できない。



「河川敷地は原則として占用させない」

## これまでの河川敷地占用

- 東京オリンピック(S39)  
国民の体力づくり推進のため、河川敷地を有効利用
- 都市部における公園・緑地不足



### 河川敷地を開放

「河川敷地占用許可準則」の制定

(S40.12.23)


## 現在の河川敷地占用

- その後、幾度かの改正を実施。  
昭和58年：植栽に関して基準見直し  
平成 6年：良好な河川環境への関心の高まりから  
「河川環境への配慮規程」の追加
- 現在の河川敷地占用は平成11年に改正  
河川環境を配慮しつつ、河川敷地の多様な利用の  
推進と地域に配慮した利用を掲げて行われました。

## これからの河川敷地占用

一級河川淀川水系河川整備基礎案の中では…

- ・スポーツ・レクリエーション活動の場としての利用需要の増大のための利用の促進してきた。
- ・一方、「河川環境の整備と保全」「地域意見の反映」という新たな概念も導入された。

 公園等が無造作に作られた結果、河川環境に悪影響を与えている箇所もあるとの指摘

## これからの河川敷地占用

これからの公園等河川敷地の占用の前提として…

- ・「川に活かされた利用」
- ・「グラウンド等は縮小を基本とする」

現実の利用実態との調整として

**「河川保全利用委員会」**

## 河川保全利用委員会 淀川水系他河川の状況

- 淀川河川事務所

現在、以下の河川単位にて  
河川保全利用委員会を開催中

- ・淀川本川
- ・木津川下流
- ・宇治川
- ・桂川

淀川本川・宇治川は  
発足に向けて準備中



第2回桂川河川保全利用委員会  
[平成16年11月29日(月)]

# 基本理念・ガイドライン について

## 基本理念とは？

今後の河川敷利用の前提として(河川毎に)

「川に活かされた利用」・「川でないとできない利用」



「許可する利用」「縮小の目標」とはどのようなものか

- ・環境面で許される利用
- ・現実の利用実態との調和
- ・グラウンド等の縮小の方向性 など



これらを定めるためのイメージとして**基本理念**

## 基本理念の策定に向けて

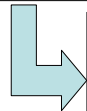
「各河川の望ましいイメージ」の創出

これまでの現状の概略説明

(・環境 ・利用の実態 ・改修 など)

現地調査

イメージの創出のための必要な資料は要望に応じて提示



各河川のイメージを基にして「許可する利用」「縮小の目標」のイメージの創出

- ・「川に活かされた利用」「川でないとできない利用」とは何か
- ・環境に許された利用、現実の利用とどのように調和していくのか



上記を取りまとめて整理を行い、委員会での審議



**基本理念の答申**

## 「河川利用指針（ガイドライン）」 について

答申を受けた基本理念に基づいて、  
各申請主体が事前協議申請の提出



そのために

- ・どのような利用が川に好ましいのか？
- ・川に好ましくない利用の縮小について  
どのような計画を定めればよいのか？



上記を具体的に表したものとして「ガイドライン」の作成



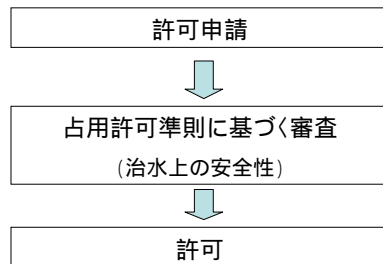
## ガイドラインにて定める内容とは

- ・事前協議申請に必要な図書などの指定
- ・好ましい利用、好ましくない利用の例示
- ・縮小の目安
- ・問題の処理方法 等

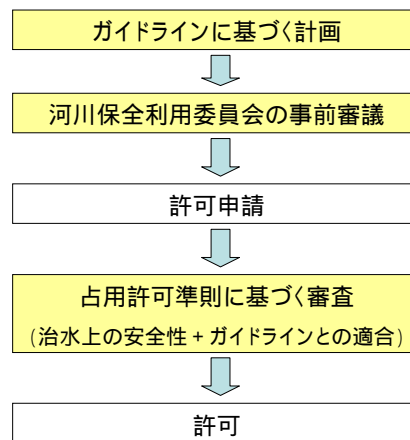
など

## 申請処理の流れについて

(これまでの申請許可手続)



(ガイドラインが決まれば)



## ガイドラインの策定にむけて

基本理念の答申を受けて、ガイドライン(案)  
を作成



河川保全利用委員会にて審議



河川利用指針(ガイドライン)の公表

【今後の委員会運営、審議内容について（案）】

	委員会運営など 全体事項	各河川の基本理念 の検討	「河川利用指針(ガイド ライン)」の策定	事前協議申請 の諮問に対する審議	その他、河川保全 に関する意見提案
第1回委員会 (H16.11.7)	委嘱状交付	各河川の現況説明 ・ <i>バワーポイント説明</i>			必要に応じて随時、 提案
第2回委員会 (H16.12.15)	河川管理者からの提示 ・ <i>河川敷地占用のあらまし</i> ・ <i>基本理念、ガイドラインに ついて</i>	各河川の現況説明 <i>現地調査に向けての説明</i> ・ <i>歴史・改修・利用の現況</i> ・ <i>自然環境</i>			
第3回委員会 (H17.1.19)		現地調査 <i>現地視察、感想会</i>			
第4回委員会 (H17.2.16)		各河川のイメージ <i>許可できる利用とは何か の議論</i>	ガイドライン(案)の 準備、作成		
第5回委員会 (H16.4月下旬)		<b>各河川の基本理念 の確認</b>			
第6回委員会 (H16.5月頃)		<b>基本理念の答申</b>	ガイドライン(案) の審議 <i>質疑応答 修正</i>		
第7回委員会 (H17.6月頃)			ガイドラインの了承  <b style="background-color: #FFD700;">ガイドラインの公表</b>		
第8回委員会 (H17.7月頃)				審議方法の検討 <i>方法・形式について 意見書の様式など</i>	
第9回委員会 (H17.8月頃)				審議方法の検討 <i>最終確認</i>	
第10回委員会				個別案件の審議	
第11回委員会				個別案件の審議 意見書(案)の準備	
第12回委員会				意見書答申	

審議の進行状況によっては色々、変更が生じると考えていますので、あくまで目安としてお考え下さい。

# 各河川に関する現況について

琵琶湖河川事務所

## 瀬田川の歴史

- 琵琶湖から流れ出る  
ただ1つの河川
- 本格的な治水工事は  
江戸時代から  
川浚え、瀬違えなど
- 明治時代より、総合的  
な治水事業に着手



田上山の砂防事業  
南郷洗堰の構築など

## 野洲川の歴史

- かつては「近江太郎」と言われたほどの暴れ川
- 約10年に1度の割合で大水害が発生してきた



昭和28年(右上)、  
昭和40年(上・左)  
の洪水

野洲川における、昭和の主な水害

昭和28年9月	台風13号	死者3名、重傷170名、流出・半壊1713戸
昭和33年9月	台風22号	氾濫袖川、野洲川下流
昭和32年9月	台風15号	今浜新田決壊、床上浸水
昭和40年9月	台風24号	堤防決壊11、死者1名、家屋全半壊411、浸水1522戸

## 草津川の歴史

- 洪水で土砂が繰り返し堆積し、河床高が増す毎に堤防をかさ上げた  
河床が地盤より高くなった

### 「天井川」

- 昭和28年9月の台風13号では、12,000戸が浸水被害を受けた



昭和28年9月草津川



「木曾街道六十九次之内、草津追分(伊勢利版)」歌川広重画。草津川の徒歩(かち)渡しを描いたもの。



## 瀬田川の改修 - 洗堰の設置

- 瀬田川浚渫に伴い、増加した流下能力を制御するために、洗堰を設置した。

- 明治38年  
南郷洗堰の設置

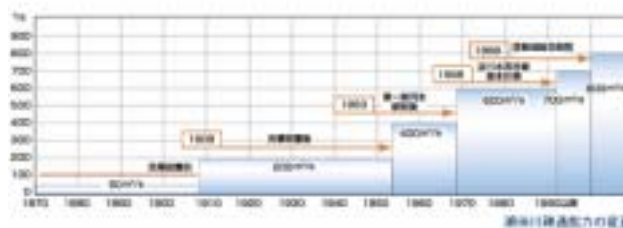


- 昭和36年  
瀬田川洗堰の設置



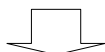
## 改修の結果

- 長年の事業の結果、洗堰設置前と比べ、現在では1.6倍の疎通能力(毎秒 $50\text{m}^3$  -  $800\text{m}^3$ )を持つ



## 瀬田川水辺整備事業

- 治水を中心として作られた河川空間

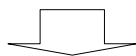


- 景観の資源的価値を高め、人々が美しい風景の中でくつろげるような河畔づくりを目指す



## 野洲川の改修 - 放水路の建設

- 下流部は天井川かつ南流と北流に分かれていて、両方の川幅の合計は、上流部より狭かった(流下能力が低く、洪水になりやすい)



- 昭和33年より、南流、北流の分岐付近から新しい河川(放水路)を建設した(昭和54年通水)



昭和35年

昭和50年

現在

## 野洲川ふるさとの川整備事業

- 河川公園やグラウンド等を、流域の各市町村と河川管理者が協力して整備

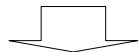


野洲川ふるさとの川整備事業イメージパース



## 草津川の改修

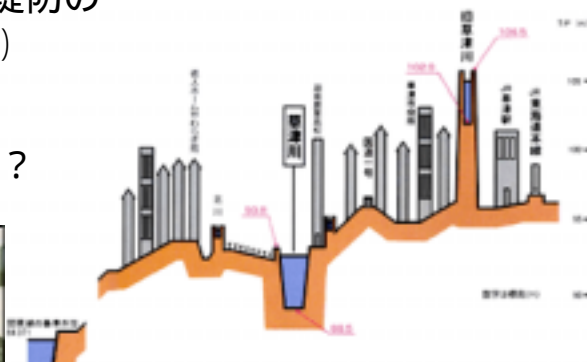
- 全国有数の天井川  
(国道やJR線が堤防の下を通っている)



どう改修するか？



国道1号線とトンネル上で交差する草津川





# 草津川放水路事業

- 河道を付け替え、平地に新しい水路を開削する



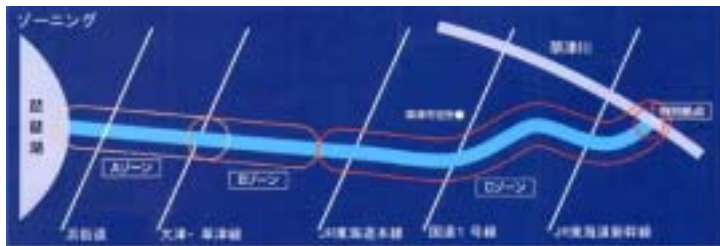
現状の草津川放水路（河口部）



現状の草津川放水路  
（白鳥川との合流点）

# 草津川の整備イメージ

- 草津川の歴史や自然を生かす川づくり



- Aゾーン / 自然豊かな川づくり・琵琶湖保全への配慮
- Bゾーン / 地域に親しまれる川づくり・自然豊かな川づくり
- Cゾーン / 地域に親しまれる川づくり・自然豊かな川づくり・新しい歴史と文化をつくる
- 特別拠点 / ステップ・プール式落差工
- 全区間 / 新しい歴史と文化をつくる



Aゾーンの整備イメージ



Bゾーンの整備イメージ



Cゾーンの整備イメージ

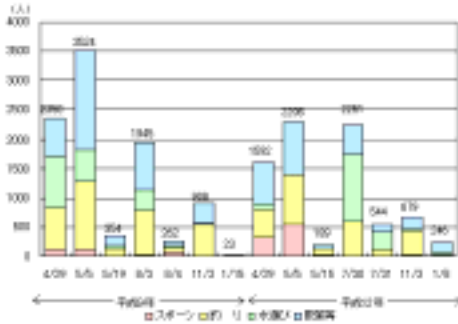


特別拠点の整備イメージ

# 瀬田川の利用実態

- 散策や釣り、水遊びが多く、スポーツ利用は少ない
- 利用場所は水際と堤防が中心

各調査日の利用者数



利用形態別・利用場所別利用状況

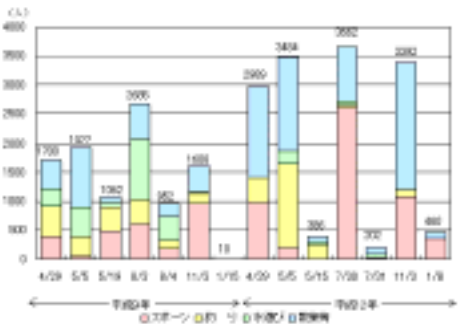


[平成12年度河川水辺の国勢調査 (空間利用調査)より引用]

# 野洲川の利用実態

- 散策やスポーツ利用が多い
- 利用場所は高水敷が最も多い

各調査日の利用者数



利用形態別・利用場所別利用状況



[平成12年度河川水辺の国勢調査 (空間利用調査)より引用]

## 河川利用者の評価

- 平成15年 川の通信簿

アンケート調査により、総合的な川の親しみやすさを5段階評価

- 瀬田川、野洲川とも星3つの総合評価

(かなり良い部分があり一定の満足感を味わえる)

瀬田川

特に良い点	特に悪い点
文化・歴史のある地域でこの水辺空間は素晴らしい。	高水敷のアクセスが非常に悪く危険である
四季折々に花や緑があって、景観が良い。	トイレがなくて学校帰りにとても困る。
散歩がしやすい。	水に落ちたらあがりにくく危険である。
	(瀬田川の)藻の繁殖、ゴミが目立つ。

野洲川

特に良い点	特に悪い点
自然が気軽に楽しめる。	花火・バーベキュー後のゴミの片付け、マナーが悪いです。
芝生が多くてきれい。ピクニックなどにも良いと思う。	駐車場から下へ降りづらいです。
四季を通じて遊びやすいです。	トイレも近くにあればもっと良い。

[平成15年 川の通信簿 より]

## 地域の中の瀬田川

- 一番丸

明治2年に就航していた蒸気船を元にした観光船で地域が中心となってリバークルーズを運行  
観光資源としての瀬田川を活かす



- NPO 瀬田川リバプレ隊  
石山名月の会  
瀬田川未来塾  
など



## 地域の中の草津川

- 旧草津川のイメージを引き継ぐ、桜並木の整備
- 草津市がNPO「琵琶湖ネット草津」に委託、NPOが桜のオーナーを募って植樹を進める



## 瀬田川・野洲川・草津川の 自然環境について

淀川水系流域委員会 第1回琵琶湖部会  
平成13年5月13日(金)

### ・資料3

淀川水系の現状説明

より抜粋

## 『河川水辺の国勢調査』とは

- 河川事業、河川管理等を適切に推進するため、河川を環境という観点からとらえた定期的、継続的、統一的な河川に関する基礎情報の収集整備を図るものです。

河川水辺の国勢調査実施状況

河川名	野洲川						瀬田川						草津川									
	魚介類	底生動物	植物	鳥類	陸上昆虫類等	小動物	その他	魚介類	底生動物	植物	鳥類	陸上昆虫類等	小動物	その他	魚介類	底生動物	植物	鳥類	陸上昆虫類等	小動物	その他	
2																						
3																						
4																						
5																						
6																						
7																						
8																						
9																						
10																						
11																						
12																						
13														総括 [H8 - H12]								
14							総括 [H6 - H13]															総括 [H9 - H12]
15																						
16																						

総括、河川水辺総括資料作成調査を表す。( [ ] は資料作成対象年度を表す。)

## 瀬田川の特徴



瀬田川洗堰付近



鹿跳溪谷



# 瀬田川の特徴



## A 瀬田川洗堰上流      B 瀬田川洗堰下流      C 鹿跳渓谷

- A 瀬田川洗堰上流**
  - 直線的な人工護岸
  - 洗堰による止水域
  - 水際に一部ヨシ帯
  - 河床は泥、砂
- B 瀬田川洗堰下流**
  - 直線的な人工護岸
  - 洗堰による水量の増減
  - 水際に一部ヨシ帯
  - 河床は小礫
- C 鹿跳渓谷**
  - 岩盤の露出
  - 洗堰による水量の増減
  - ツルヨシ、ヤナギ等
  - 河床は岩盤

# 野洲川の特徴

## 生息環境の現状

### 【野洲川放水路】

もし、昔のままの野洲川だったら！

近年の大きな洪水(H.29洪水)が発生した場合を想定すると、野洲川下流に大きな被害をもたらすことになります。



× 印は、昭和28年洪水の決壊箇所です。



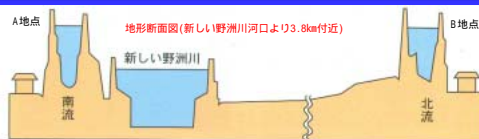
明治29年の洪水



昭和22年の洪水

## 河川環境の変化

大きな洪水から守るため新しい野洲川(放水路)をつくりました



# 野洲川の特徴



A

河口付近

- ・直線的な人工護岸
- ・中洲の発達
- ・ヨシ群落
- ・河床は砂、砂泥

B

服部大橋付近～落差工

- ・直線的な人工護岸
- ・流路の蛇行
- ・点在するワンド
- ・河床は砂、砂礫

C

J R 橋梁付近

- ・多様な護岸形状
- ・瀬、淵の存在
- ・高水敷の公園利用
- ・河床は砂、砂礫

D

名神橋梁付近

- ・多様な護岸形状
- ・複雑な水域
- ・瀬、淵、ワンド
- ・河床は砂礫

# 草津川の特徴



本川（天井川・J Rとの立体交差）

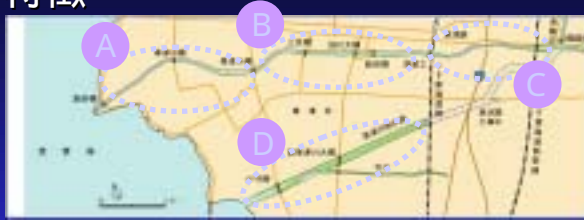


本川および放水路





# 草津川の特徴



A 河口付近      B 砂川大橋付近      C 落差工上流      D 草津川放水路



- ・琵琶湖の入江状
- ・川幅狭いが、水際に湿生草地
- ・河床は砂、泥



- ・河道は直線的
- ・湿生草地少なく、人工的要素強い
- ・河床は砂



- ・比較的川幅広く、寄り州が成立
- ・湿生草地が成立
- ・河床は砂



- ・工事のため、裸地が大部分
- ・一部に植生成立
- ・河床は砂、泥

## ■ 瀬田川河川環境情報図 (1/2 75.0～71.0km)



**瀬田川 75.0～71.0km (瀬田川川)**  
 瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。

瀬田川河川環境調査団 事務局  
 〒490-0111 富山県富山市高岡1-1-1  
 電話 076-263-5111  
 ファクシール 076-263-5112  
 Eメール info@seataken-river.org

**瀬田川 75.0～71.0km (瀬田川川)**  
 瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。

瀬田川河川環境調査団 事務局  
 〒490-0111 富山県富山市高岡1-1-1  
 電話 076-263-5111  
 ファクシール 076-263-5112  
 Eメール info@seataken-river.org

**瀬田川 75.0～71.0km (瀬田川川)**  
 瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。

瀬田川河川環境調査団 事務局  
 〒490-0111 富山県富山市高岡1-1-1  
 電話 076-263-5111  
 ファクシール 076-263-5112  
 Eメール info@seataken-river.org

**瀬田川 75.0～71.0km (瀬田川川)**  
 瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。瀬田川は、琵琶湖から北へ流れる河川で、本川は、湖上から約10km下流にあり、流路は、ほぼ東西に伸び、約15kmの距離を流れて、北へ流れる。

瀬田川河川環境調査団 事務局  
 〒490-0111 富山県富山市高岡1-1-1  
 電話 076-263-5111  
 ファクシール 076-263-5112  
 Eメール info@seataken-river.org



瀬田川河川環境調査団 事務局  
 〒490-0111 富山県富山市高岡1-1-1  
 電話 076-263-5111  
 ファクシール 076-263-5112  
 Eメール info@seataken-river.org

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好

**瀬田川河川環境調査団 事務局**

調査項目	調査結果
水質	良好
水量	豊富
水色	透明
水質	良好





# 野洲川環境情報図 (1/2) [0.0km~7.0km]



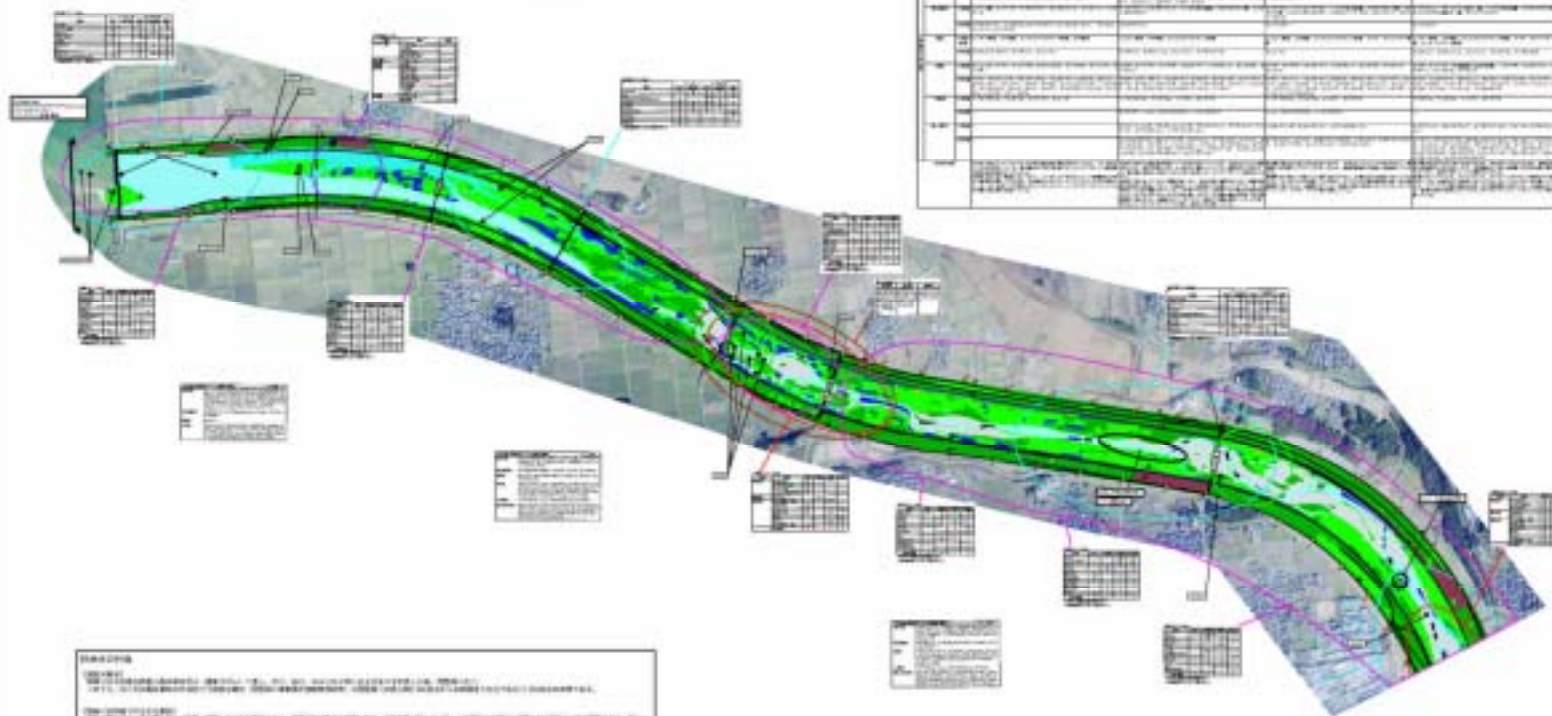
**凡例**

河川	河川
支川	支川
河川敷	河川敷
河川敷外	河川敷外
河川敷内	河川敷内
河川敷外	河川敷外
河川敷内	河川敷内
河川敷外	河川敷外
河川敷内	河川敷内

**水質**

水質	水質
水質	水質
水質	水質
水質	水質
水質	水質
水質	水質

河川名称	河川番号	水質項目	測定地点	測定日	測定値
野洲川	0.0km	水温	野洲川上流	2010.01.15	10.5
野洲川	0.0km	溶存酸素	野洲川上流	2010.01.15	8.5
野洲川	0.0km	pH	野洲川上流	2010.01.15	7.5
野洲川	0.0km	濁度	野洲川上流	2010.01.15	15
野洲川	0.0km	COD	野洲川上流	2010.01.15	10
野洲川	0.0km	BOD	野洲川上流	2010.01.15	5
野洲川	0.0km	NOx	野洲川上流	2010.01.15	10
野洲川	0.0km	PO4	野洲川上流	2010.01.15	0.5
野洲川	0.0km	SS	野洲川上流	2010.01.15	10
野洲川	0.0km	塩素	野洲川上流	2010.01.15	0.5
野洲川	0.0km	その他	野洲川上流	2010.01.15	



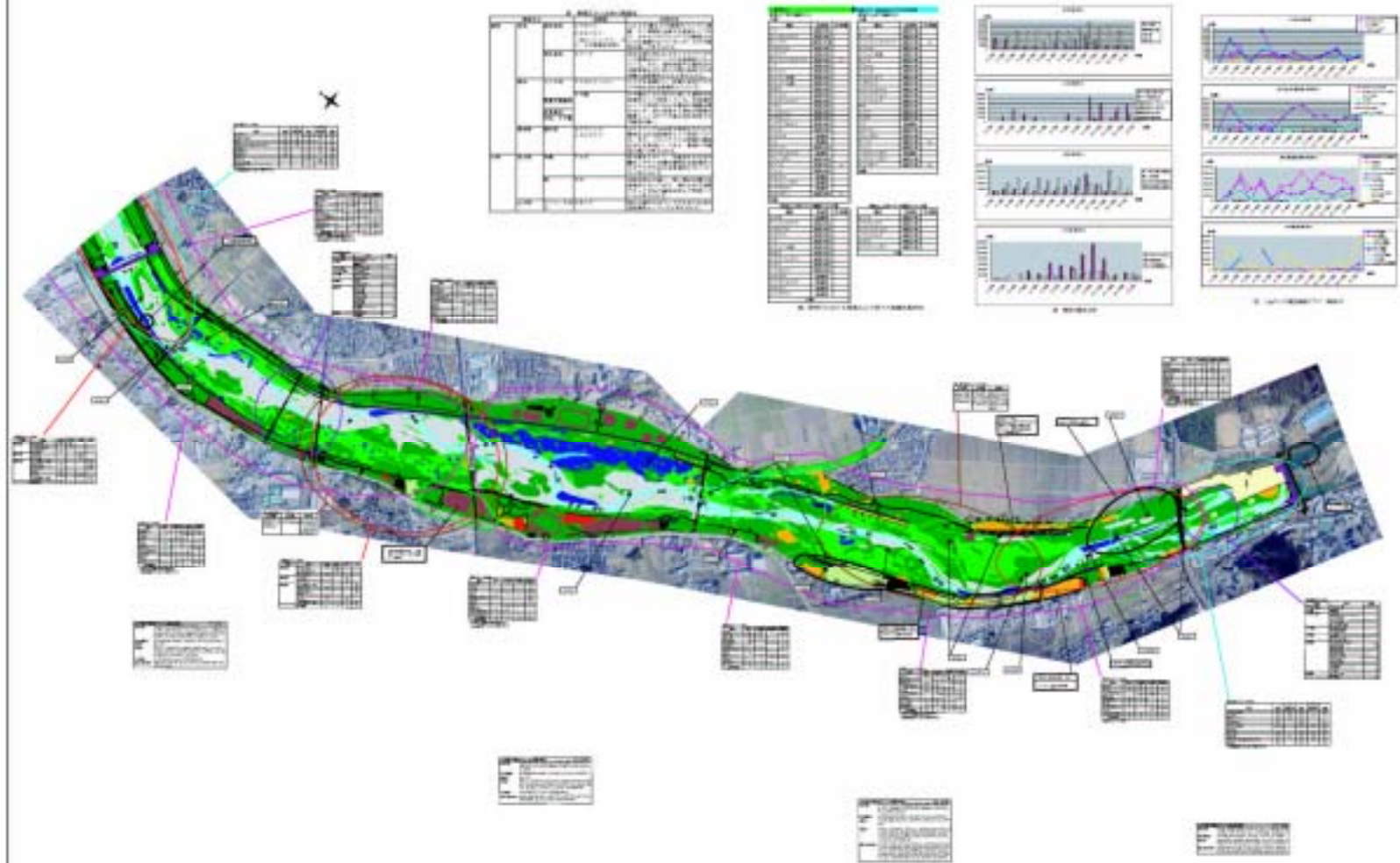
野洲川環境情報図 (1/2) [0.0km~7.0km]

この図は、野洲川の水質環境情報を示しています。図中の色は、水質の良否を示しています。赤は悪質、黄は注意、緑は良好を示しています。また、図中の数字は、水質の測定値を示しています。図中の数字は、水質の測定値を示しています。

野洲川環境情報図 (1/2) [0.0km~7.0km]

野洲川環境情報図 (1/2) [0.0km~7.0km]

# 野洲川環境情報図 (2/2) [7.0km~13.8km]



瀬田川

# 瀬田川の水質の現状

# 1.1 瀬田川の水質の現状

## 【瀬田川の水質区分】

### 瀬田川（唐橋流心）

類型	A
pH	6.5 ~ 8.5
BOD	2mg/l以下
SS	25mg/ 以下
DO	7.5以上
大腸菌	1000MPN/100ml以下



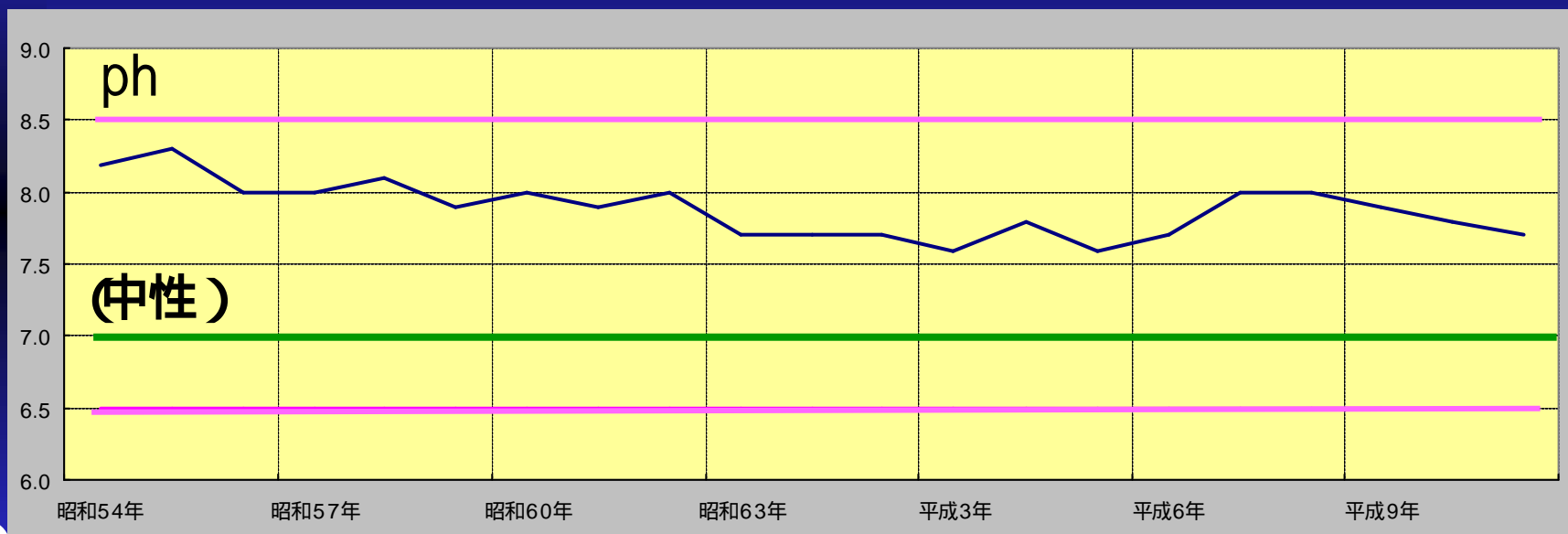
水域の範囲	類型値	達成期間	指定年月日	備考
瀬田川	A	イ	昭和47年4月6日	環境庁



# 1.1 瀬田川の水質の現状

## 【ph (生活環境項目)】

アルカリ性)  
↑  
↓  
(酸性)

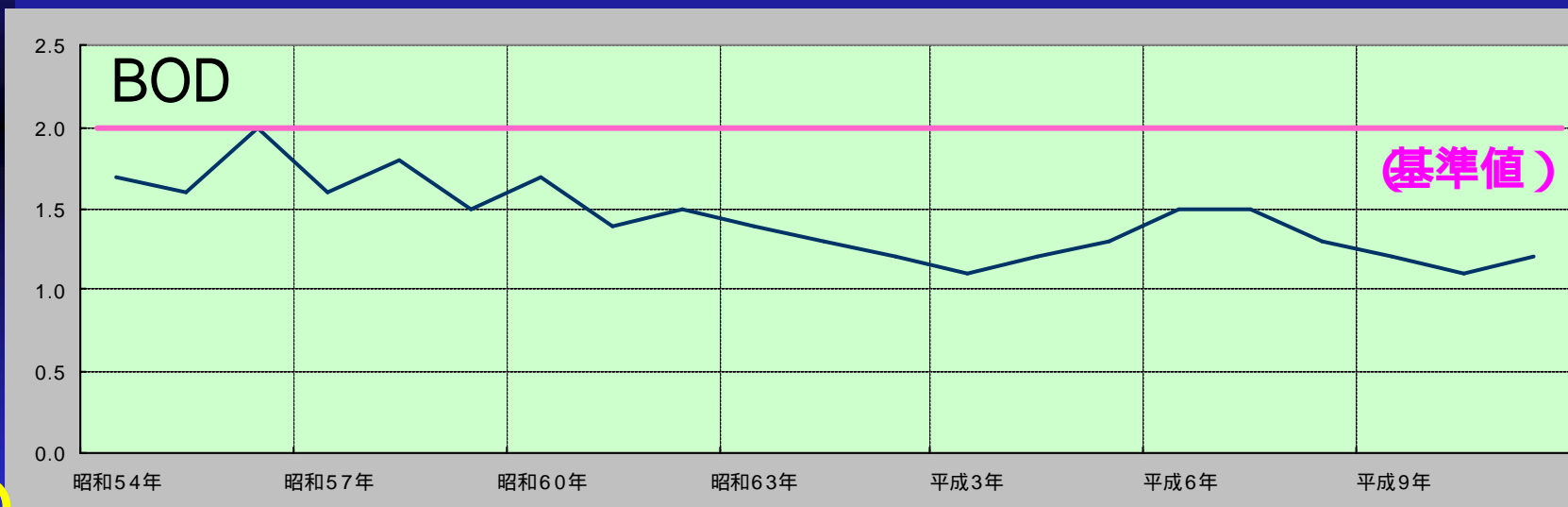


瀬田川の水質は、基準値を満足しています。

## 1.1 瀬田川の水質の現状 【BOD (生活健康項目)】

(悪化)

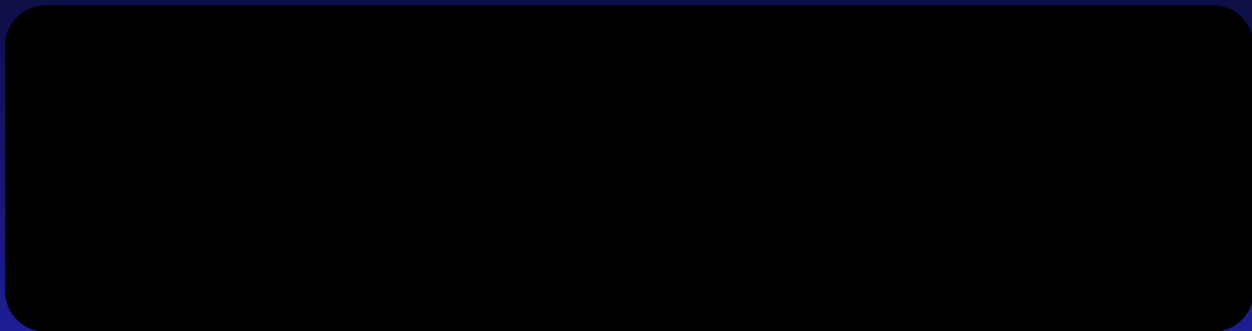
(良好)



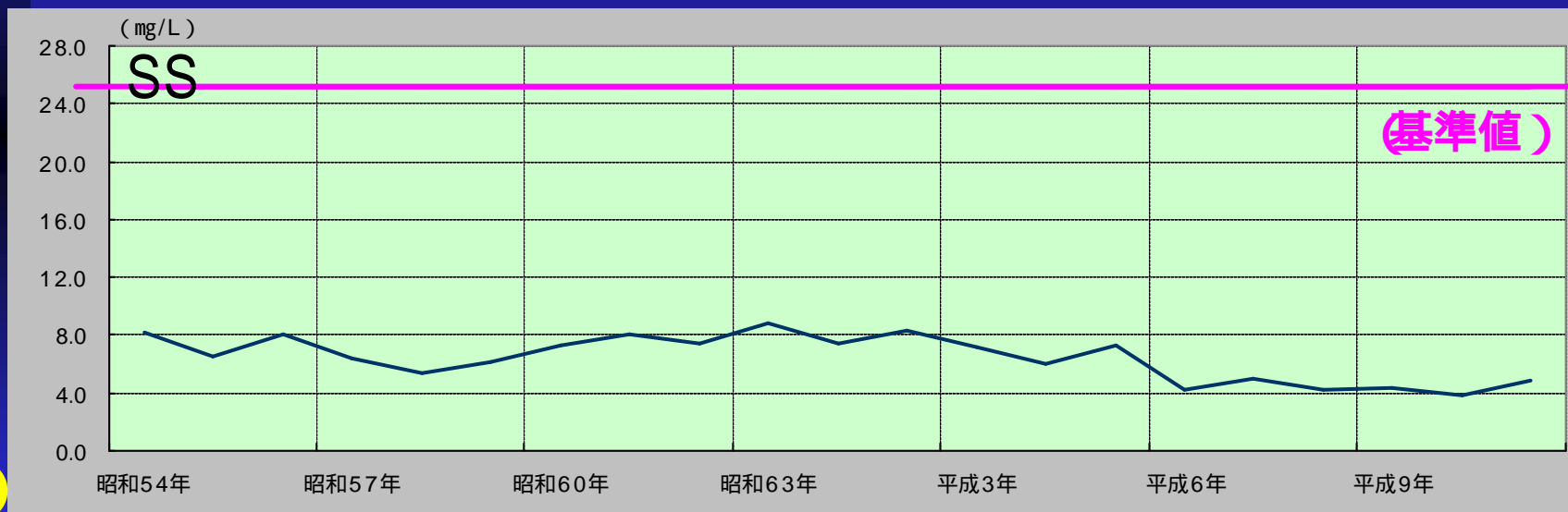
瀬田川の水質は基準値を満足しています。

# 1.1 瀬田川の水質の現状

## 【SS (生活環境項目)】



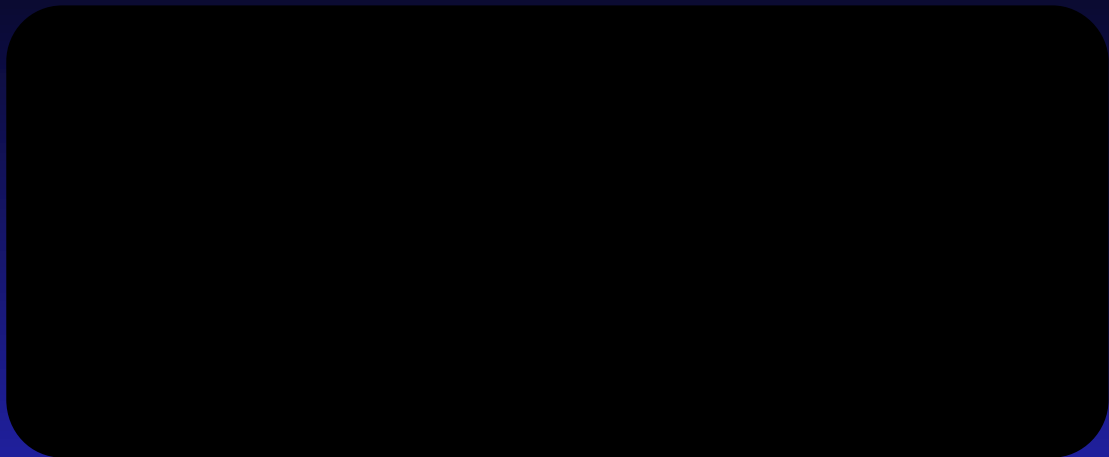
▼  
(良好)



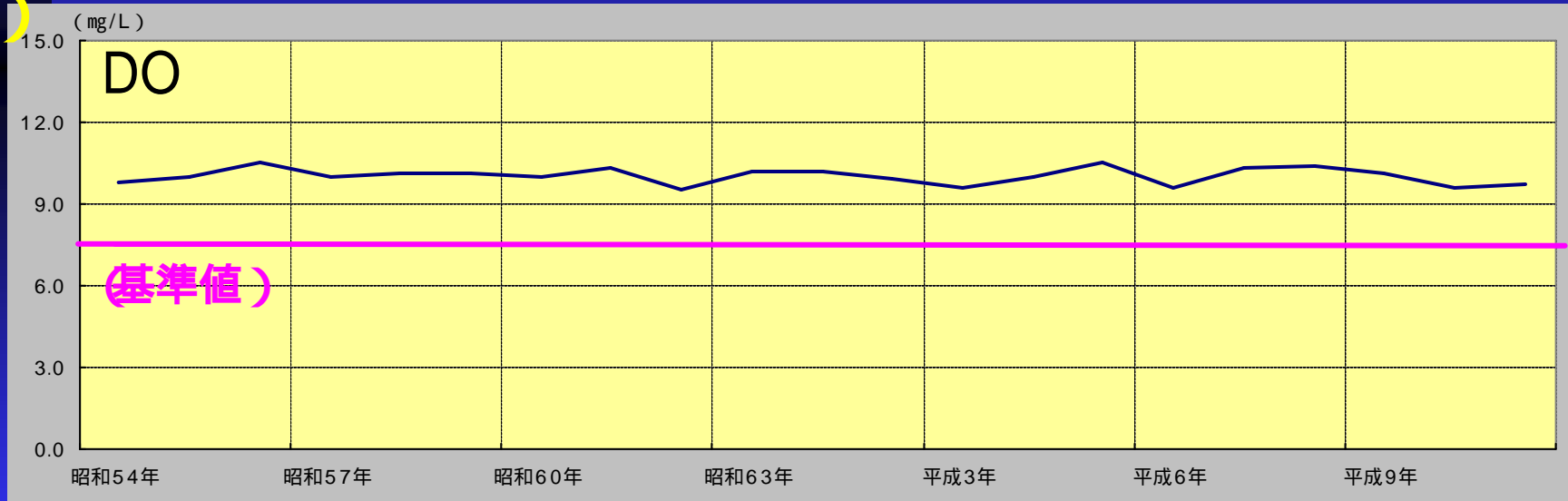
瀬田川の水質は、基準値を満足しています。

# 1.1 瀬田川の水質の現状

## 【DO (生活環境項目)】



(良好)

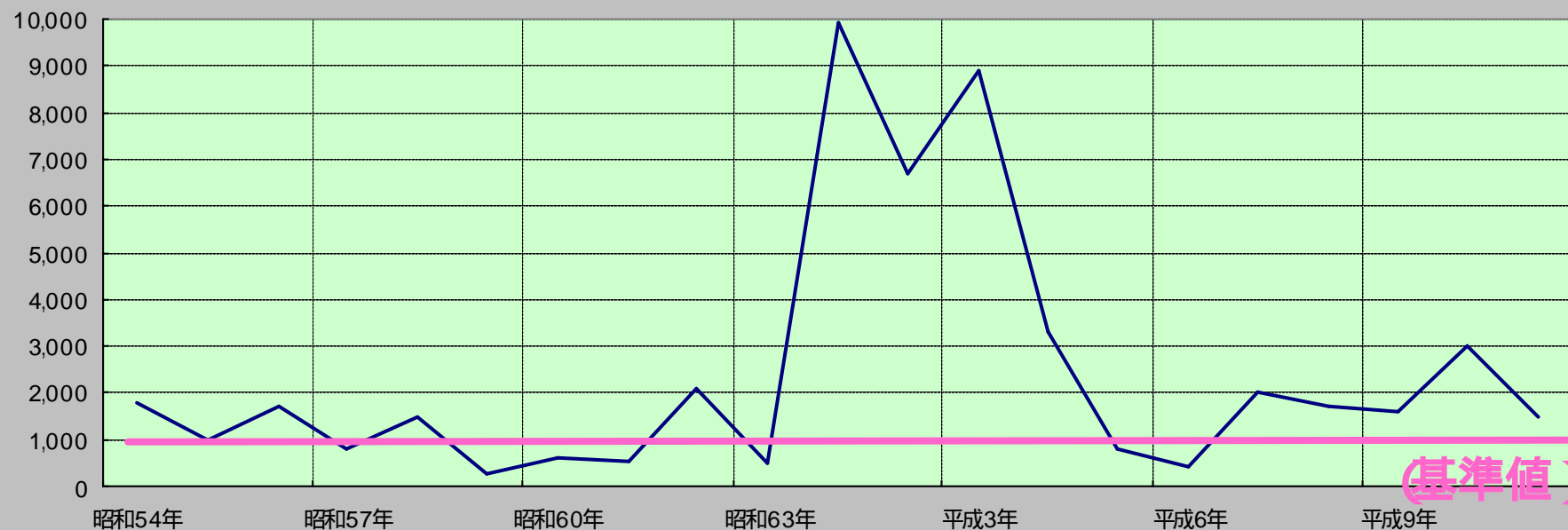


瀬田川の水質は基準値を満足しています。

# 1.1 瀬田川の水質の現状

## 【瀬田川の大腸菌 (生活環境項目)】

(Mpn/100ml)



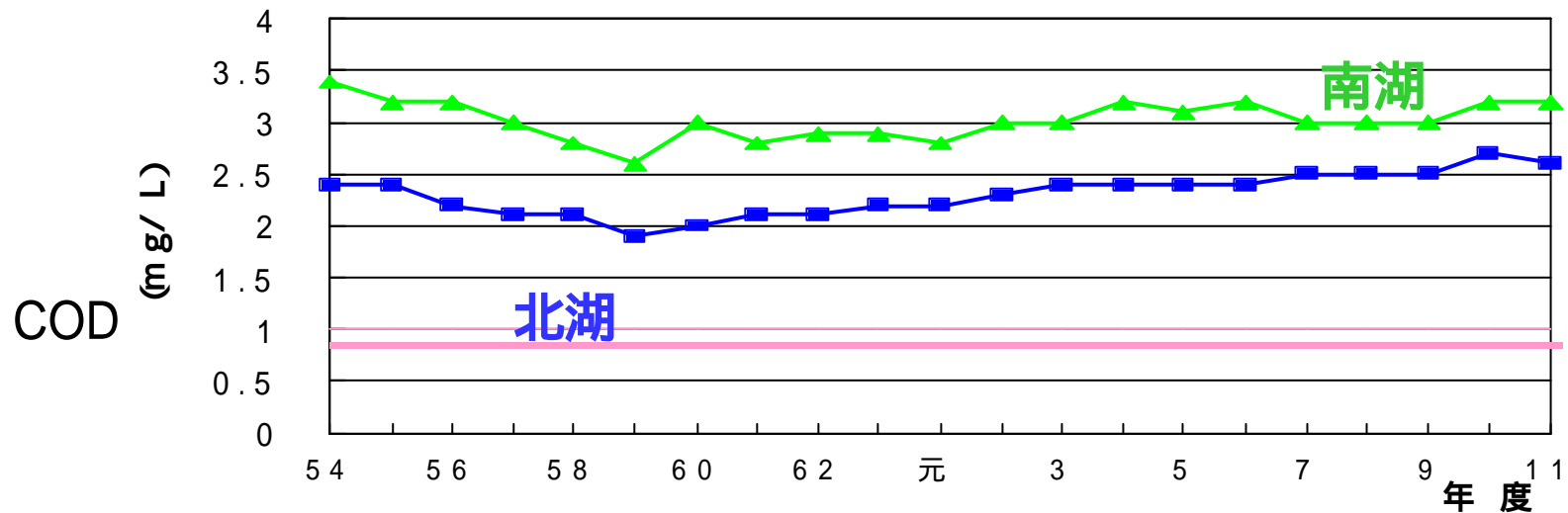
年毎に大腸菌の数は大きく異なっており、安定した基準値達成状況には至っていません。

# 1.1 瀬田川の水質の現状 琵琶湖の水質 (COD)】

近年においても琵琶湖は環境基準を達成できていません。

CODとは...

水中の有機物等を酸化剤で酸化する際に消費される酸化剤を酸素量に換算したもので、BODとともに有機汚染の指標に用いられています。人為的汚染がない湖沼は概ね1mg/以下と言われています。BODが河川に用いられるのに対し、CODは湖沼や海域で用いられます。



# 生物の現状

# 1.1 瀬田川の特徴



瀬田川洗堰付近



鹿跳溪谷





# 1.1 瀬田川の特徴



## A 瀬田川洗堰上流

- 直線的な人工護岸
- 洗堰による止水域
- 水際に一部ヨシ帯
- 河床は泥、砂

## B 瀬田川洗堰下流

- 直線的な人工護岸
- 洗堰による水量の増減
- 水際に一部ヨシ帯
- 河床は小礫

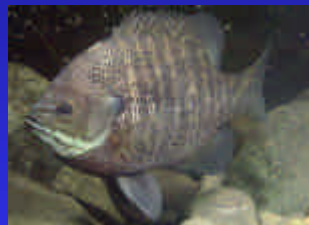
## C 鹿跳溪谷

- 岩盤の露出
- 洗堰による水量の増減
- ツルヨシ、ヤナギ等
- 河床は岩盤

## 1.2 魚介類



- 確認個体のうち 約 4割をブルーギルが占め、オイカワ、ブラックバス等が優占する



ブルーギル



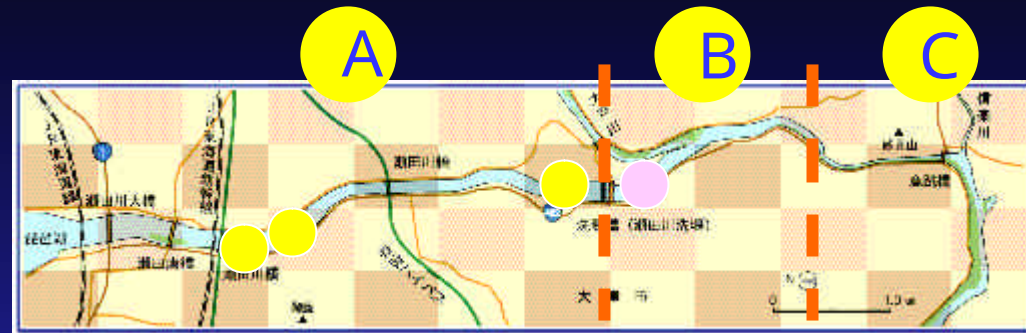
オイカワ



ブラックバス

- **A** **B** の代表種  
ブルーギル、カワムツB型、ヌマチチブ、オイカワなど
- **C** の代表種  
ブルーギル、ブラックバス、コウライモロコなど

## 1.3 底生生物



- 全体として、カゲロウ目、トンボ目、ハエ目、トビケラ目が多い
- A** : ヒメタニシやマシジミ等の貝類多い。セタシジミは減少傾向
- B C** : トビケラ目やカゲロウ目が多く、底生動物相は豊か

### 特定種



**A** ナリタヨコエビ



**B** ギンヤンマ幼虫

# 1.4 植物

A



• 植生域は水際に帯状で小面積  
ヨシ、マコモ、チコスズメヒエ等

• 高水敷は小面積  
メヒシバ、植栽木等

• 特定種



ドクゼリ



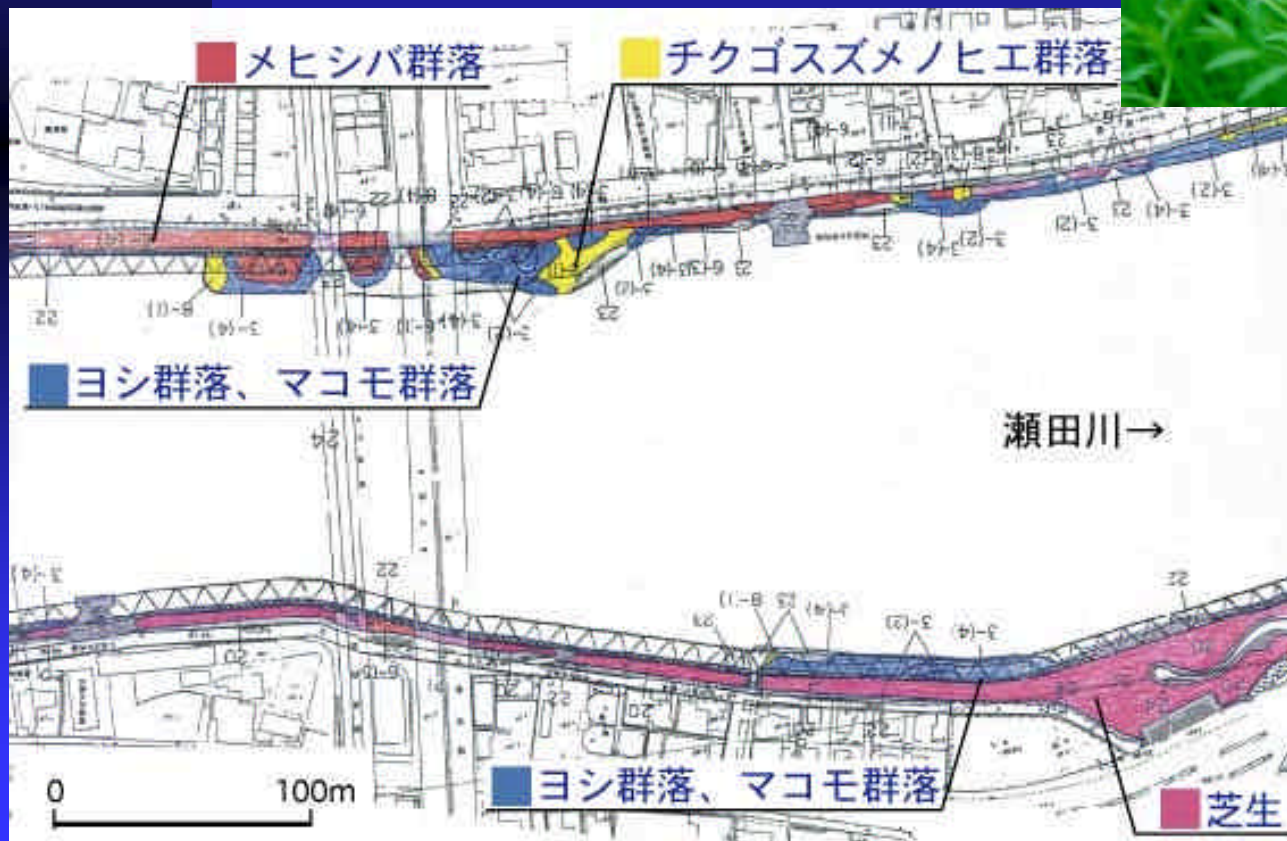
オオマルバナホロシ



ネジレモ



トチカガミ



メヒシバ群落

チコスズメノヒエ群落

ヨシ群落、マコモ群落

瀬田川→

ヨシ群落、マコモ群落

芝生

# 1.4 植物

B



- 植生域は水際に帯状で小面積  
オギ、カサスゲ、ヤナギ類等

- 高水敷は湿生、乾生草地在り  
メヒシバ、イヌビエ等

- 特定種

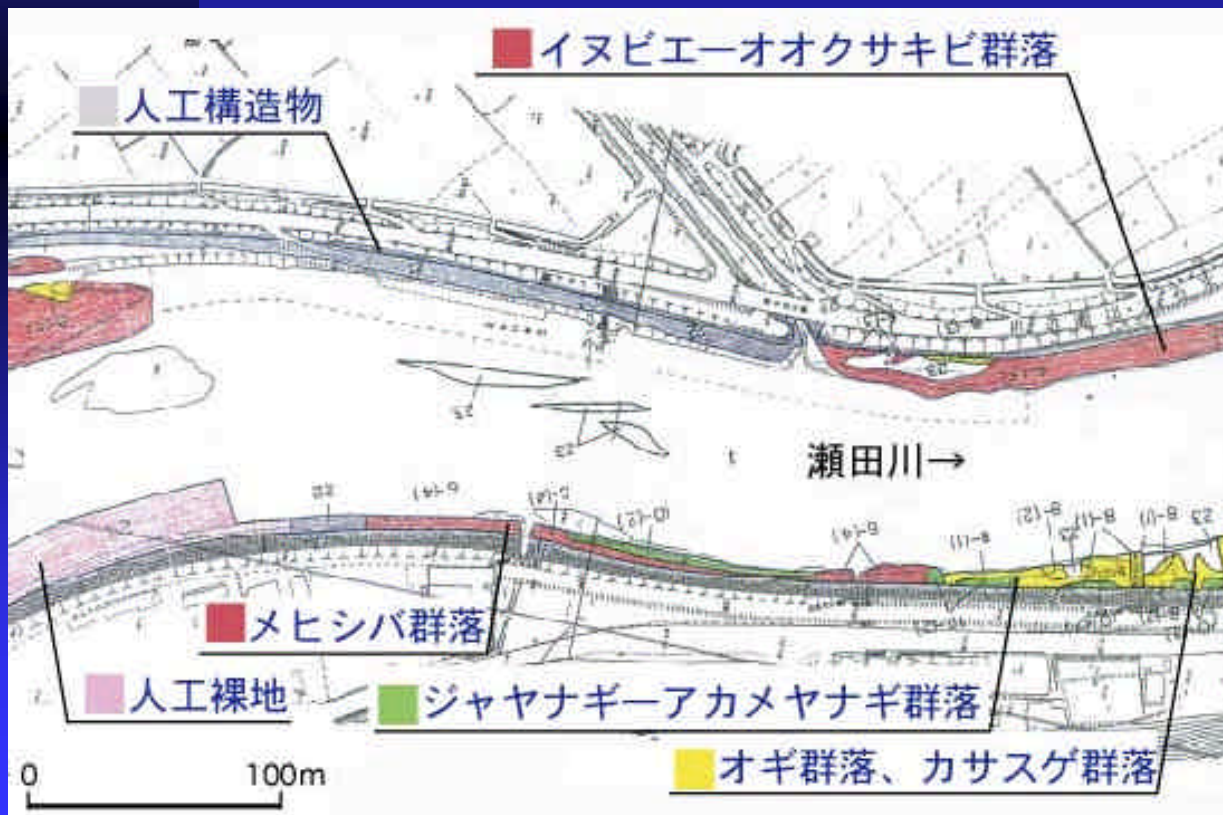
タコノアシ



キンガヤツリ



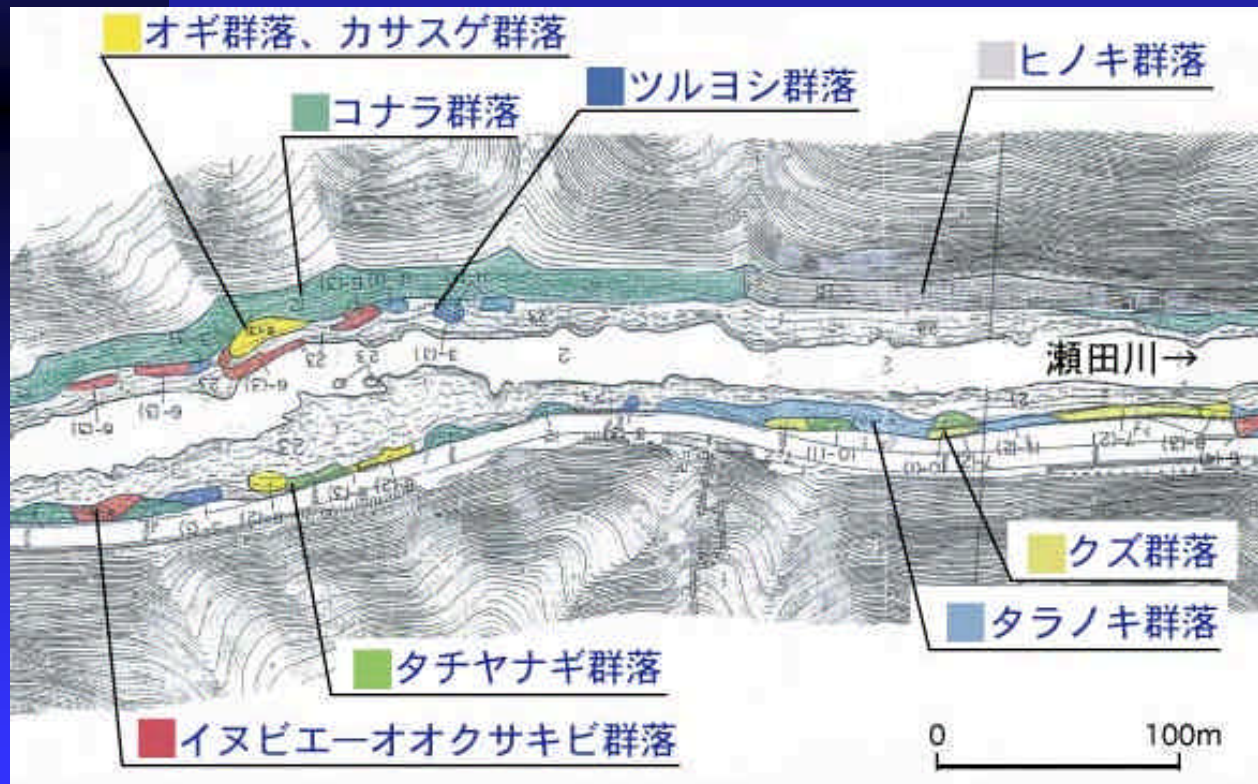
オオマルバノホロシ



# 1.4 植物



- 岩盤の露出する溪谷域
- 岩盤上の土砂堆積地に植生が成立  
ツルヨシ、オギ、ヤナギ類等
- 後背斜面は、ヒノキ植林やコナラ等雑木林
- 特定種



## 1.5 鳥類

- 全体として、カモ類、カワウ、サギ類、セキレイ類が多い



A

- 市街地に近く、植樹帯や開放水面が特徴

カンムリカイツブリ  
カイツブリ  
ユリカモメ  
シジュウカラ  
メジロ

B

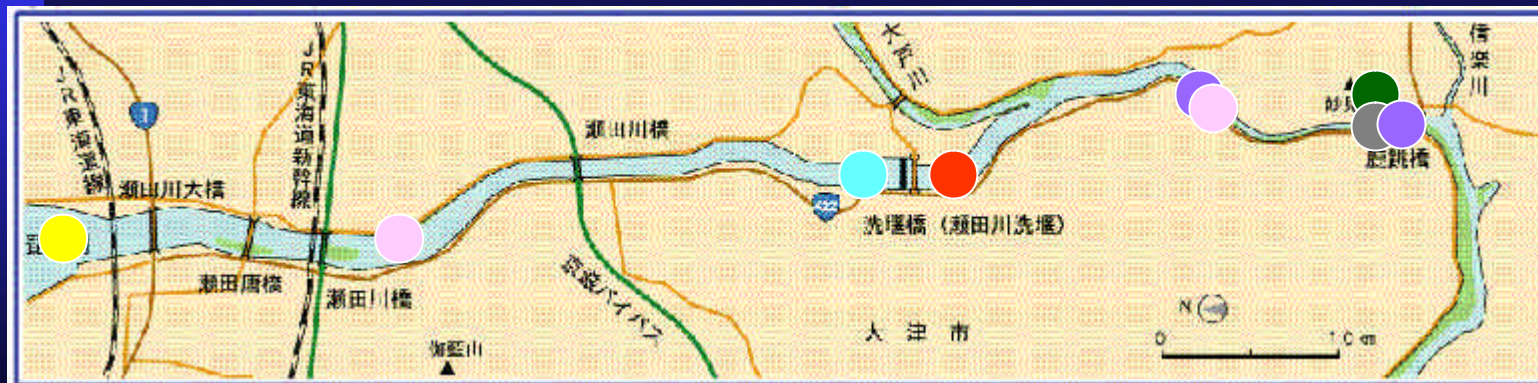
C

- 山間部を流下しているため、森林性と溪流性の双方がみられる

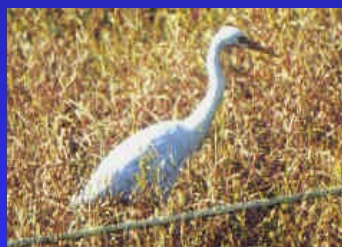
カワガラス  
ヤマセミ  
アオゲラ  
シロハラ

# 1.5 鳥類

## 特定種



● カンムリカイツブリ



● チュウサギ



● ミサゴ



● タゲリ



● ヤマセミ



● ハイタカ



● オオタカ



## 1.6 昆虫

- 草地に依存する種が多く、コウチュウ目、チョウ目、カメムシ目が多い



A

- 止水環境を反映
  - ホソミイトンボ
  - キトンボ
- 湿生草地を反映
  - マダラスズ
  - ヤチスズ

B

- 比較的確認種数が少ない
- 大戸川下流の植生を反映
  - キイロサナエ
  - アオサナエ
  - などのトンボ類

C

- 山地性の種
  - ムネアカオオアリ
- 流水域を反映
  - コオニヤンマ
- 砂地を反映
  - ヤマトスナゴミムシダマシ

# 1.6 昆虫

## 特定種



● セグロ  
アシナガバチ



● ヒメスズメバチ



● ゲンジボタル



● モリチャバネ  
ゴキブリ



● ヨコツナサシガメ



● ムネアカ  
オオアリ



● シオヤアブ



● トラ  
マルハナバチ



● キボシ  
アシナガバチ

## 1.7 小動物 (両生類、爬虫類、哺乳類)

### 両生類

#### 確認種

- ・アマガエル
- ・トサマガエル
- ・ウシガエル



アマガエル



トサマガエル



ウシガエル

## 1.7 小動物 (両生類、爬虫類、哺乳類)

は虫類

### 確認種

- ・イシガメ科の一種
- ・シマヘビ
- ・カナヘビ



イシガメ



シマヘビ



カナヘビ

## 1.7 小動物 (両生類、爬虫類、哺乳類)

### ほ乳類

- ニホンザル (特定種)  
鹿跳溪谷付近に生息
- ノウサギ  
鹿跳溪谷付近に生息
- モグラ属の一種  
高水敷の草地等に生息
- ネズミ類 (アカネズミ、ヒメネズミ)  
洗堰下流の草地に生息
- テン、チョウセンイタチ  
洗堰下流の草地に生息
- タヌキ、キツネ  
洗堰下流の草地に生息
- ニホンイノシシ  
洗堰下流の草地に生息



ニホンザル



ノウサギ



アカネズミ



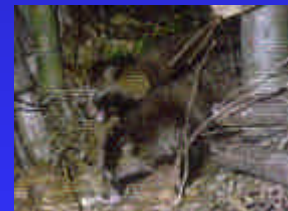
ヒメネズミ



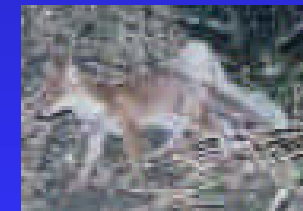
テン



チョウセンイタチ



タヌキ



キツネ



ニホンイノシシ

## 2.特徴的な種

## 2.1 セタシジミ

### セタシジミ

琵琶湖固有種のセタシジミは大変美味で水産資源として重要である。



#### ▲セタシジミ

- ・殻に光沢がある
- ・殻頂部が丸く突出し、殻長と殻高がほぼ同じ
- ・輪肋があら



#### ▲マシジミ

- ・殻に光沢がない
- ・殻高が低く、横長で、殻の膨らみは弱い
- ・輪肋がこまかい

## 2.1 セタシジミ

### セタシジミの生態的特性

古琵琶湖層からも化石として産出する、琵琶湖固有種。

1960年頃から、環境の変化により激減

生殖期は6~10月。最盛期は6~8月。

餌は底に漂うプランクトンや腐食質。

環境庁レッドリストの絶滅危惧 類。

出典 :水産庁(1994)

日本の希少な野生生物に関する基礎資料 ほか



## 2.1 セタシジミ

調査実施状況

洗堰の上流 :平成 9年11月 (116地点で50×50cmコドラート)

洗堰の下流 :平成 8年 8月 (34地点で50×50cmコドラート)



調査結果

洗堰上流で比較的個体数が多かったのは、近江大橋～東海道本線間。

洗堰下流も、比較的多い。

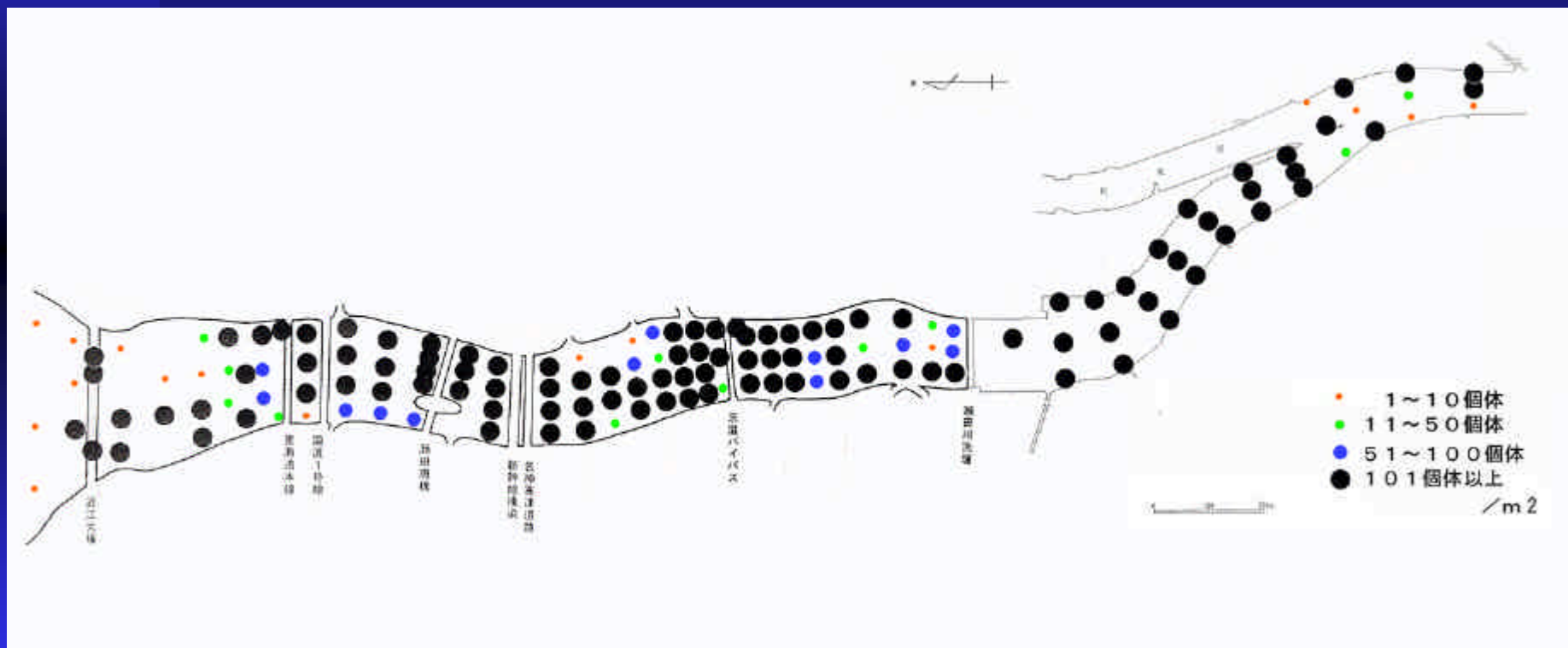
大戸川合流点まで、点在する程度。

## 2.1 セタシジミ 【マシジミの現状】

調査実施状況

洗堰の上流：平成9年11月（116地点で50×50cmコドラート）

洗堰の下流：平成8年8月（34地点で50×50cmコドラート）



調査結果

セタシジミに比べると、圧倒的に個体数が多い  
ほぼ、全域に分布。

# 野洲川

# 水質の現状把握

# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

### 【環境基準の類型指定】

#### 野洲川（全域）

類型 A

pH 6.5 ~ 8.5

BOD 2mg/l以下

SS 25mg/l以下

DO 7.5以上

大腸菌 1000MPN/100ml以下



水質自動監視装置



流量・水質調査

水域の範囲	類型値	達成期間	指定年月日	備考
野洲川	A	イ	昭和50年4月14日	滋賀県

# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

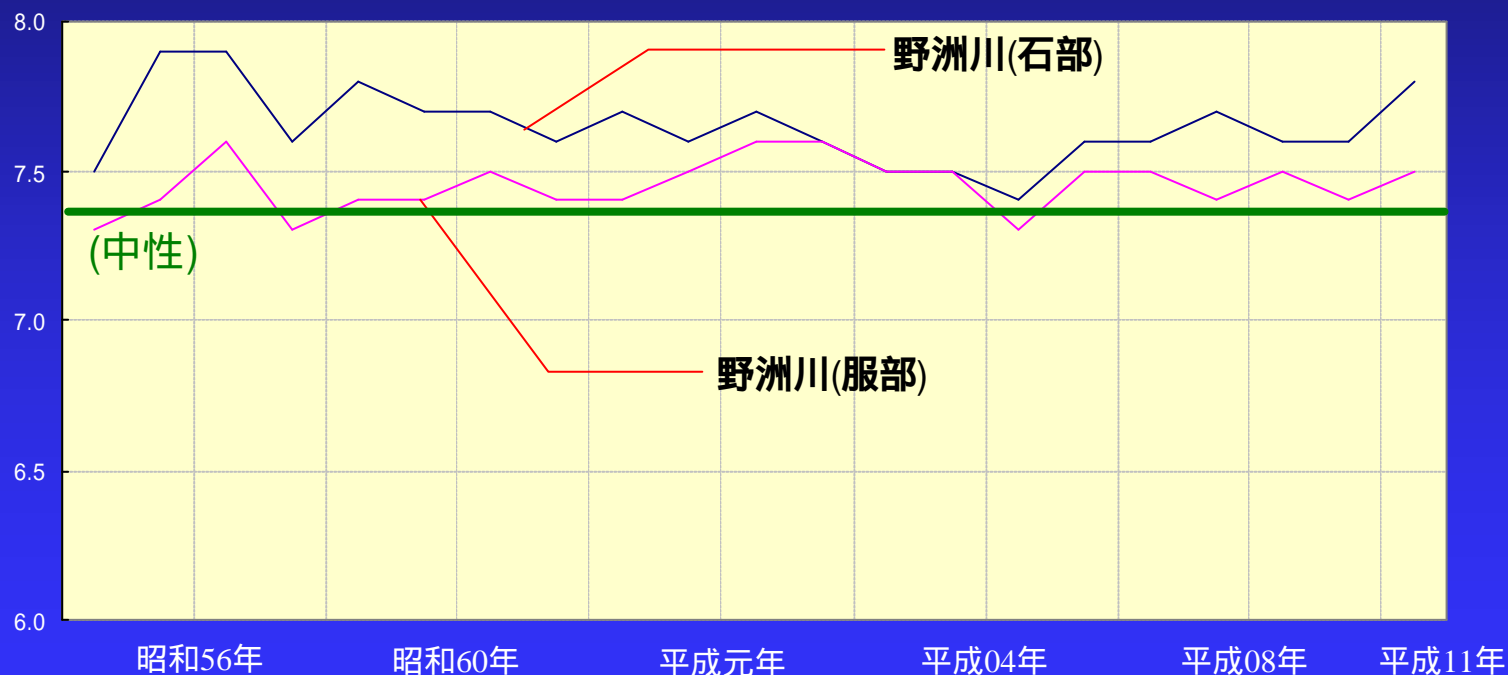
### 【ph(生活環境項目)】

phとは・・・  
水の酸性とアルカリ性の度合いを示す指標をいいます。河川ではph6.7～7.5が望ましいと言われています。

(アルカリ性)



(酸性)



野洲川のphは基準地を達成しています。

# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

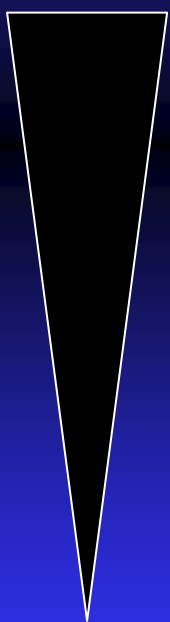
### 【BOD (生活健康項目)】

BODとは・・・

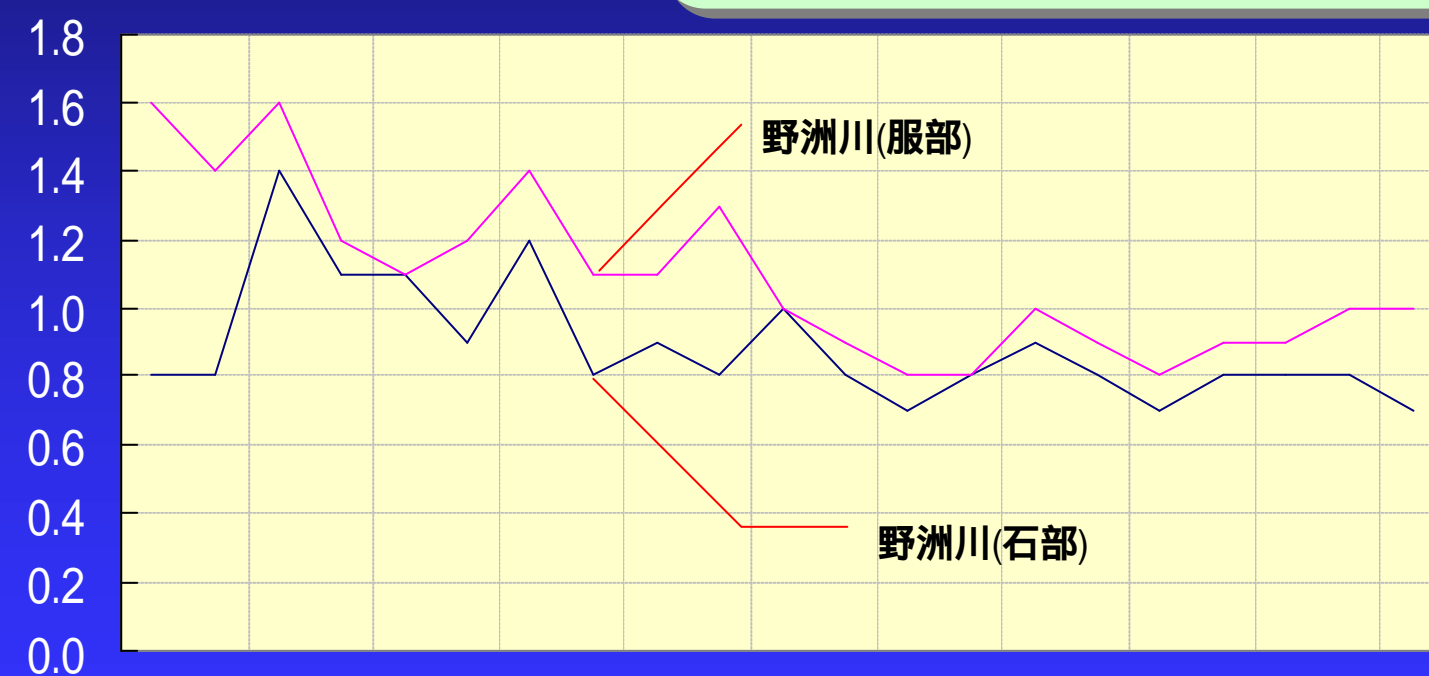
水中の比較的分解されやすい有機物が微生物によって分解される時に消費される酸素の量のことをいいます。

BODが10mg/lで悪臭が発生します。

(悪化)



(mg/l)



(良好)

野洲川の環境基準値BOD 2mg/l以下を達成しています。

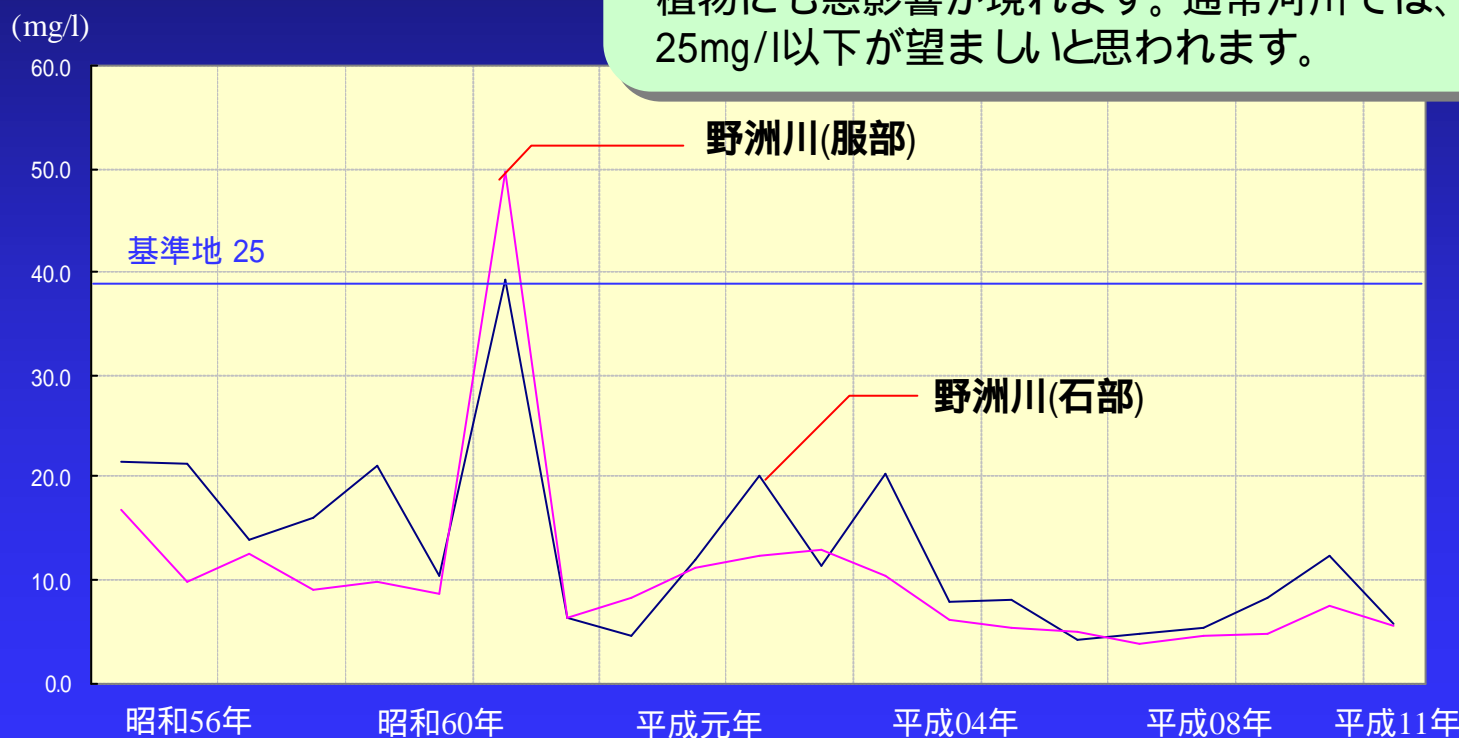
# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

### 【SS(生活環境項目)】

SSとは・・・

水中に濁している不溶解性の粒子物質のことをいいます。SSが高いと外観が悪くなる他、魚や植物にも悪影響が現れます。通常河川では、25mg/l以下が望ましいと思われれます。



(良好)

現在、野洲川では通常河川の一般的基準値25mg/l以下を達成しています。



# 1. 野洲川の水質の現状

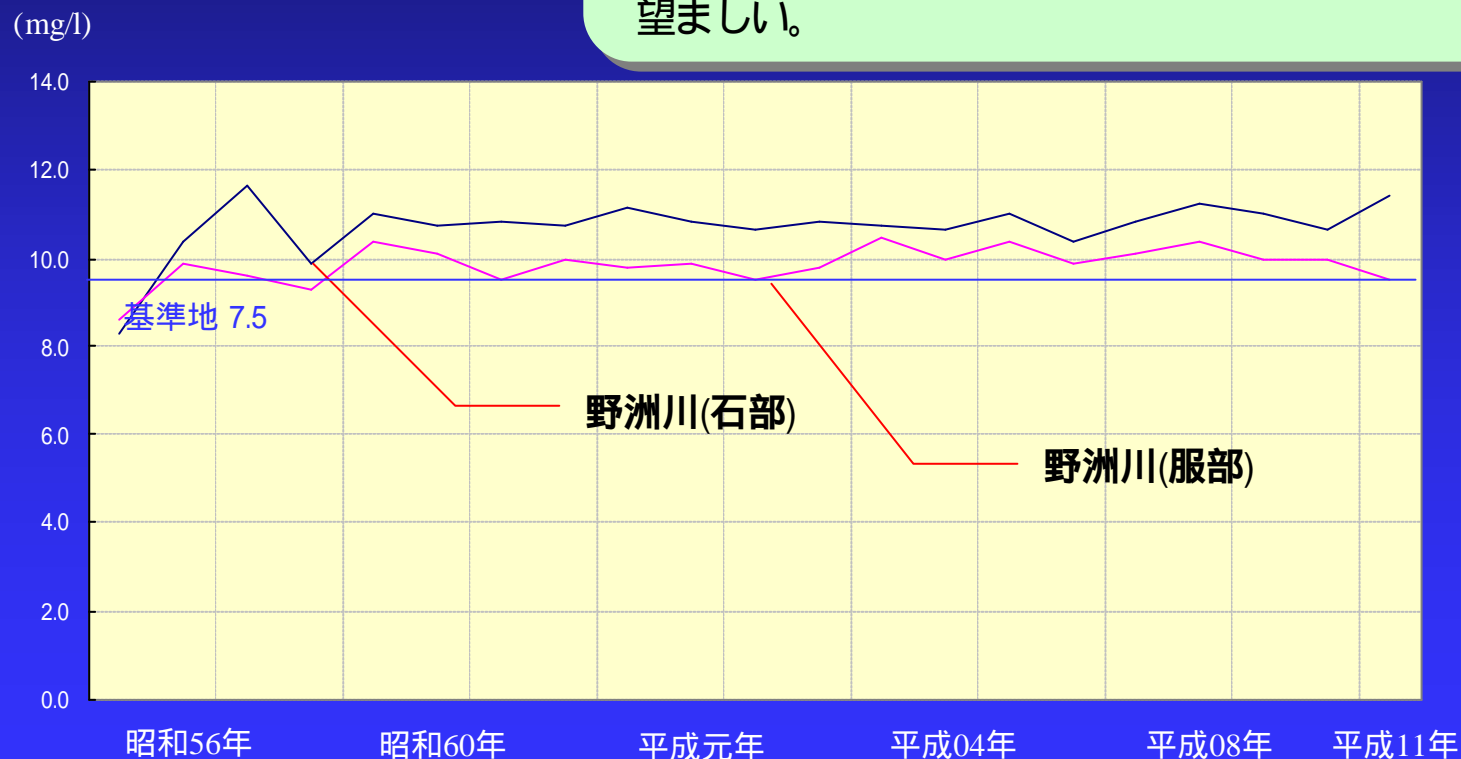
## 1.1 野洲川の水質の現状

### 【DO(生活環境項目)】

DOとは・・・

水中に溶解している酸素ガス(O<sub>2</sub>)のことをいいます。魚介類が生存するためには3mg/l以上が必要であり、良好な状態を保つためには5mg/lが望ましい。

(良好)



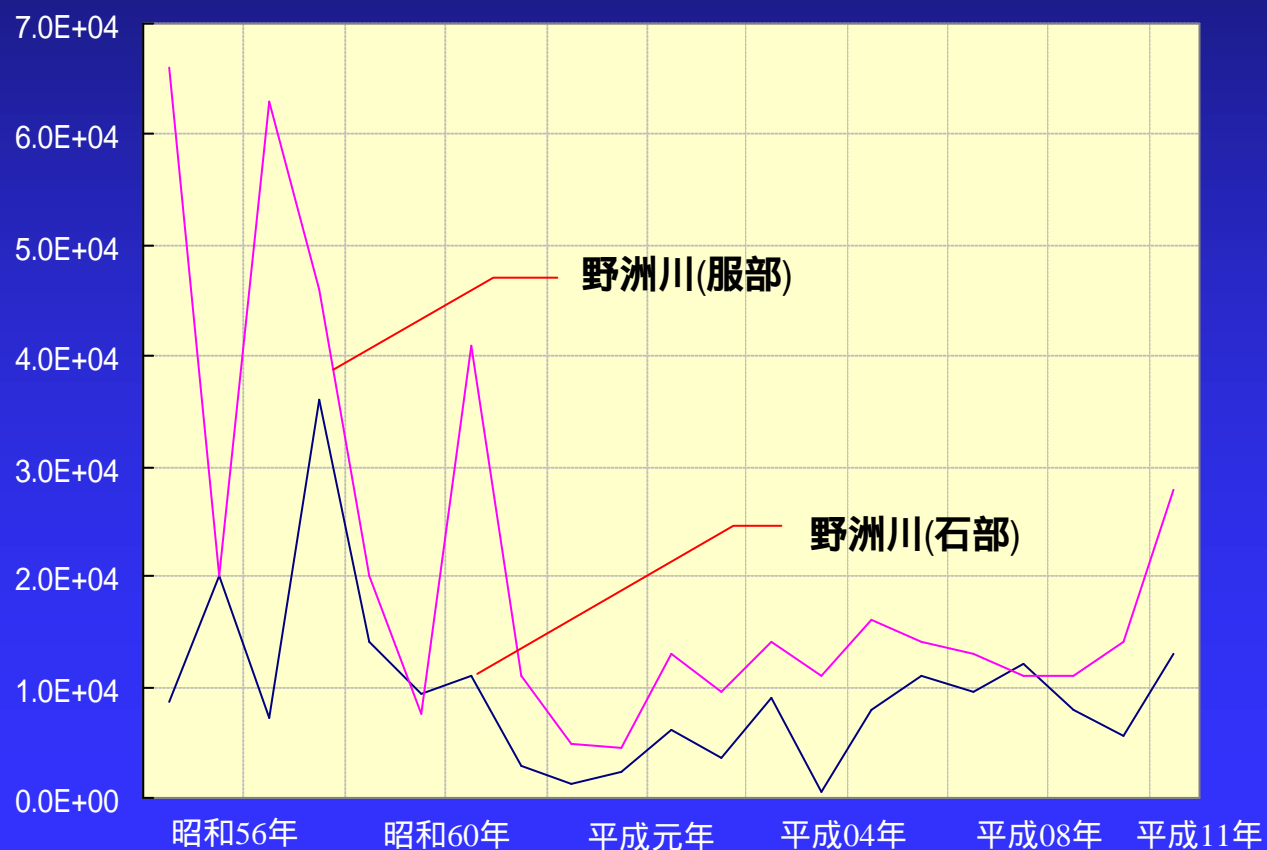
野洲川の環境基準値7.5mg/lを達成しています。

# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

### 【大腸菌(生活環境項目)】

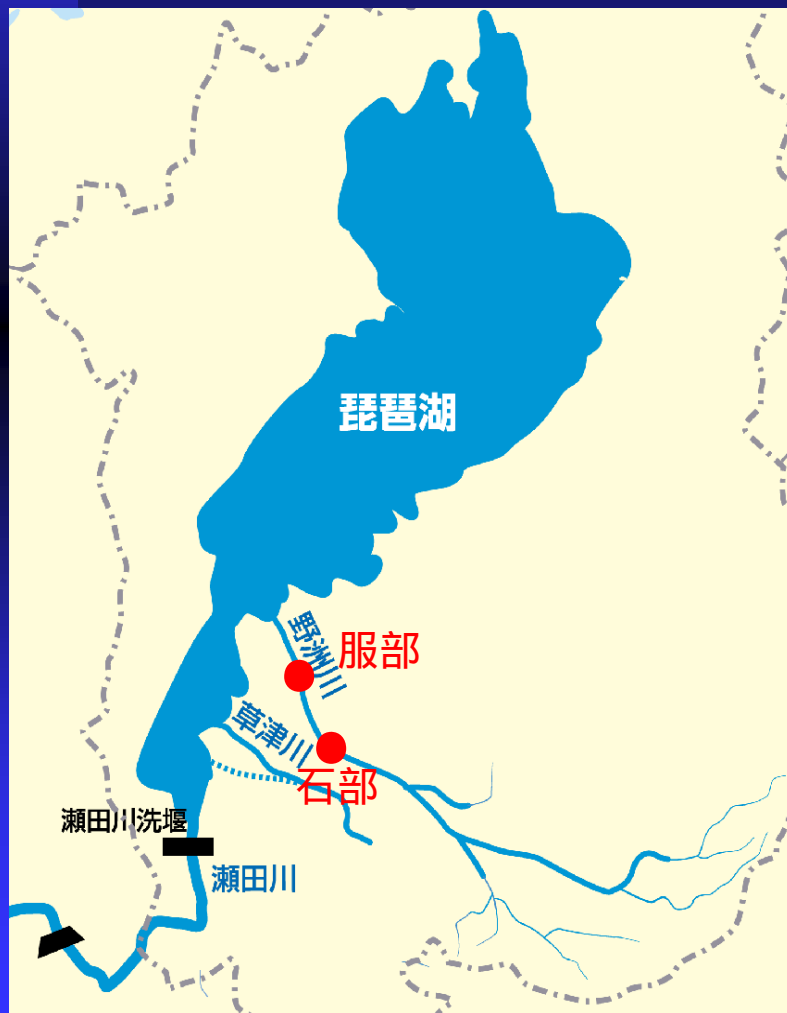
(MPN/100ml)



# 1. 野洲川の水質の現状

## 1.1 野洲川の水質の現状

### 【健康項目】



全ての環境基準地点で、健康項目の基準値を満足しています。

\*ただし、H11.2に3項目が追加され、現在は計26項目となっています。

# 生物の現状把握

# 1. 生物の現状

## 1.1 野洲川の特徴

人工放水路



河口部



落差工上流部



# 1. 生物の現状

## 1.1 野洲川の特徴



A

河口付近

- ・直線的な人工護岸
- ・中洲の発達
- ヨシ群落
- ・河床は砂、砂泥

B

服部大橋付近～落差工

- ・直線的な人工護岸
- ・流路の蛇行
- 点在するワンド
- ・河床は砂、砂礫

C

J R 橋梁付近

- ・多様な護岸形状
- ・瀬、淵の存在
- ・高水敷の公園利用
- ・河床は砂、砂礫

D

名神橋梁付近

- ・多様な護岸形状
- ・複雑な水域
- 瀬、淵、ワンド
- ・河床は砂礫

# 1. 生物の現状

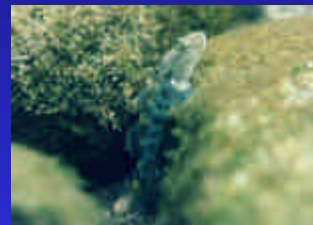
## 1.2 魚類



- ・全体として、オイカワ、トウヨシノボリ、ブラックバスの個体数が多い



オイカワ



トウヨシノボリ



ブラックバス

- ・琵琶湖からの遡上種は、主に落差工下流 (A B ) に分布



ウツセミカジカ



ゲンゴロウブナ



ヌマチチブ



ビワマス

# 1. 生物の現状

## 1.3 底生動物

- ・ハエ目、カゲロウ目、トビケラ目の種が中心



A

- ・底泥に生息する種が中心
- ・優占種  
夏：ユリミミズ  
冬：フチグロユスリカ  
春：ユリミミズ

B

- ・カゲロウ類が中心
- ・優占種  
夏：ヒメトビイロカゲロウ  
冬：オオマダラカゲロウ  
春：オオマダラカゲロウ

C

- ・造網型のトビケラ類の生息域
- ・優占種  
夏：ウルマーシマトビケラ  
冬：クロマダラカゲロウ  
春：オオマダラカゲロウ

D



# 1. 生物の現状

## 1.4 植物



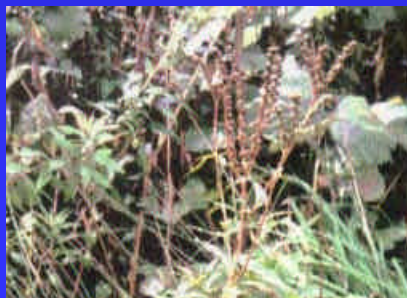
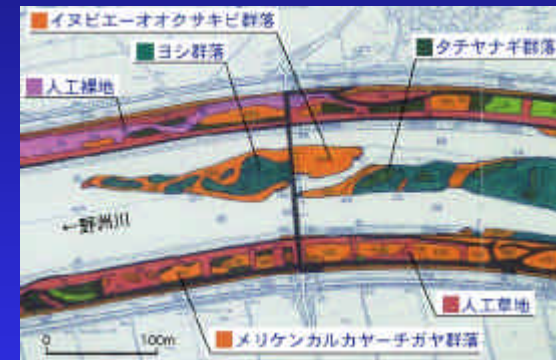
- ・ 中洲にまとまりある湿生群落

ヨシ、マコモ、キョウズメルヒ等

- ・ 高水敷の植生

セイトカアワダチソウ、チガヤ等

- ・ 特定種



タコノアシ



オオマルバノホロシ

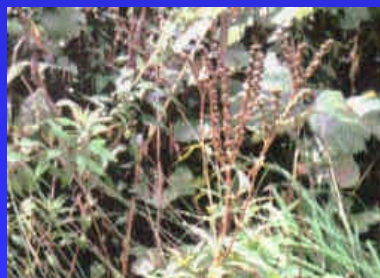
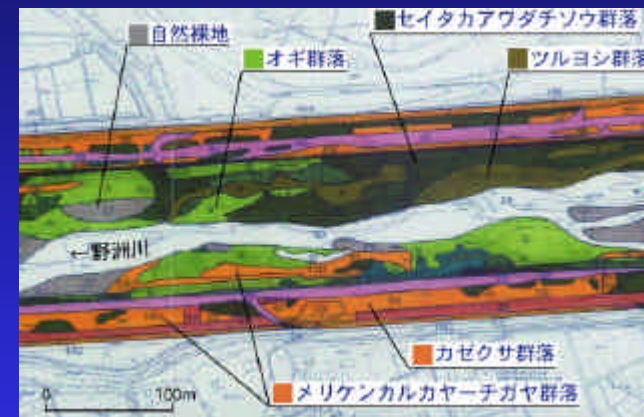
# 1. 生物の現状

## 1.4 植物

B



- ・ 低水路内は蛇行し、寄り州が形成  
オギ、ツルヨシ、砂礫地等
- ・ 高水敷の植生  
セイタカアワダチソウ、クズ
- ・ 特定種



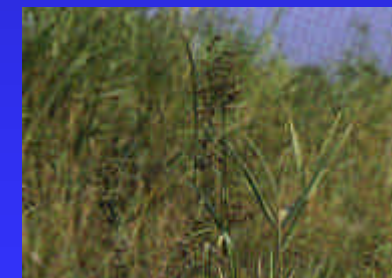
タコノアシ



カワヂシャ



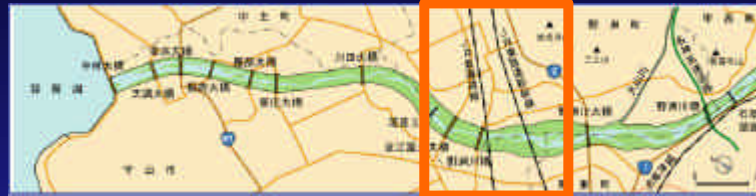
カワラハハコ



マツカサススキ

# 1. 生物の現状

## 1.4 植物



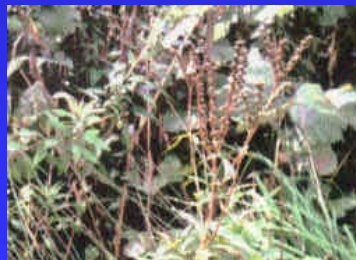
- ・ 川幅が広く、広大な中洲や寄り州が形成

オギ、タチヤナギ等

- ・ 高水敷の植生

メヒシバ、セイタカアワダテ等

- ・ 特定種



タコノアシ



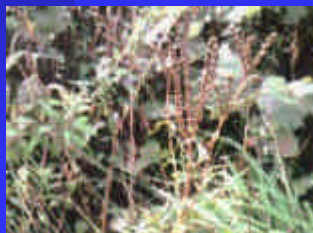
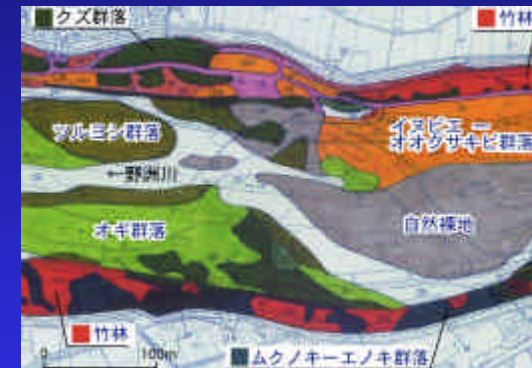
# 1. 生物の現状

## 1.4 植物

D



- ・ 川幅が広く、広大な中洲や寄り州が形成  
オギ、オオクサキビ
- ・ まとまりある湿生群落（ツルヨシ）
- ・ 高水敷の植生  
樹林、竹林、クズ
- ・ 特定種



タコノアシ



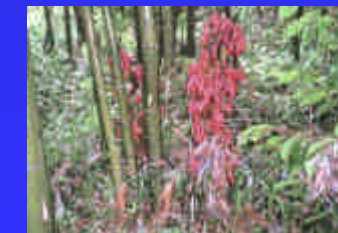
カワヂシャ



カワラハハコ



ヤナギヌカボ



ツチアケビ

# 1. 生物の現状

## 1.5 鳥類



A

- ・ 広大な開放水面と湿生草地、干潟の存在
- ・ カムリカイツブリ
- ・ バン
- ・ カイツブリ
- ・ アオアシシギ
- ・ イソシギ

B

- ・ 砂礫地や草地の存在
- ・ ヒバリ
- ・ コサギ
- ・ アオサギ
- ・ イカルチドリ
- ・ カワウやサギ類の集団分布地

C

名神橋梁付近

- ・ 竹林や樹林の存在
- ・ スズメ
- ・ カワラヒワ
- ・ キジ
- ・ ヒヨドリ
- ・ カワウやサギ類の集団分布地

D

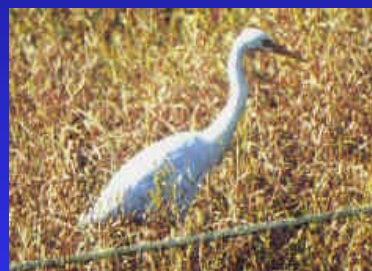
# 1. 生物の現状

## 1.5 鳥類

### ・ 特定種



● カムリカイツブリ



● チュウサギ



● アカツクシガモ

● タゲリ



● オオタカ



● アカアシシギ



● チュウヒ



● コアジサシ

# 1. 生物の現状

## 1.6 昆虫

- ・ 草地に依存する種が多く、コウチュウ目、チョウ目、カメムシ目が多い



A

B

C

D

- ・ 草地の種  
ショウリョウバッタ  
キチョウ
- ・ 砂礫地の種  
オオハサミムシ  
ノグチアオゴミムシ

- ・ 草地の種  
ホソヘリカメムシ  
エゾイナゴ
- ・ 砂礫地の種  
カワラバッタ
- ・ 樹林地の種  
アオマツムシ

- ・ 草地の種  
キリギリス
- ・ 樹林地の種  
コガタスズメバチ
- ・ ササ、竹林の種  
コチャバネセセリ

# 1. 生物の現状

## 1.6 昆虫

### ・ 特定種



● カンタン



● キリギリス



● キボシアシナ  
ガバチ



● セグロアシナ  
ガバチ



● シオヤアブ



● カブトムシ



● ミズアブ



● オオモンクロ  
ベッコウ



● ゲンジボタル



● キアシナガバチ



● ヒメスズメバチ



● モリチャバネ  
ゴキブリ



# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(ほ乳類)

### ほ乳類

- アブラコウモリ  
採餌場所として河川内に広く生息
- ヒミズ  
高水敷の樹林、竹林に生息
- モグラ属の一種  
イネ科の低茎草地に生息
- ネズミ類  
(ハタネズミ、アカネズミ、カヤネズミ)  
オギ、ヨシ等の高茎草地に生息
- イタチ属の一種  
採餌場所として河川内に広く生息
- タヌキ、キツネ  
広大な河川敷の広がる下流域を中心に生息



アブラコウモリ



ヒミズ



ハタネズミ



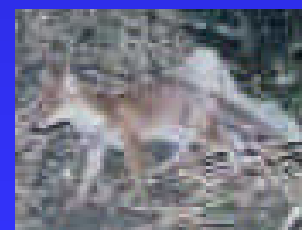
アカネズミ



カヤネズミ



タヌキ



キツネ

# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(両生類)

### 両生類

- ・ 草地、草地内の水たまり、裸地の水たまりなど、水辺を中心にカエル類が生息
  - ・ アマガエル
  - ・ トノサマガエル
  - ・ ウシガエル
  - ・ ツチガエル
  - ・ シュレーゲルアオガエル



アマガエル



トノサマガエル



ウシガエル



ツチガエル



シュレーゲル  
アオガエル

# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(は虫類)

### は虫類

- ・ カメ類 (イシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ)  
本流部の水面、水際の湿地、草地内の水たまりなどに生息
- ・ ヘビ類 (シマヘビ、アオダイショウ)  
草地や芝地に生息
- ・ カナヘビ  
草地や芝地に生息



イシガメ



クサガメ



ミシシッピアカミミガメ



シマヘビ



アオダイショウ



カナヘビ

## 2. 特徴的な種

### 2.1 ビワマス

琵琶湖より産卵のために秋に遡上、幼魚は春に琵琶湖にかえります。



サケ科の淡水産の硬骨魚  
サクラマスによく似た琵琶湖固有種。  
別名アメノウオ

# 3. 生息環境の現状

## 3.1 河川環境の変化

### 【昔の野洲川】

かつての野洲川は、野洲町竹生地区付近で大きく二本に分かれていました。

私たちの祖先は、古くから野洲川の水の恩恵を受けており、その様子は、昭和49年に発見された服部遺跡からもうかがえます。



野洲川周辺では伏流水が至るところで湧き水となって清らかな小川を作っていました。そこにはハリヨやゲンジボタルが生息し、人々に安らぎを与えていました。



丸坪湧跡

服部遺跡



弥生時代前期の竪穴式住居跡

野洲川の水は、全国に名を知られる近江米を生み出しました。



牛を使った耕作風景（昭和30年頃）



ゲンジボタル



ハリヨ

# 3. 生息環境の現状

## 3.1 河川環境の変化

### 【野洲川放水路】

大きな洪水から守るため新しい野洲川(放水路)をつくりました

もし、昔のままの野洲川だったら！

近年の大きな洪水(H.2.9洪水)が発生した場合を想定すると、野洲川下流に大きな被害をもたらすことになります



× 印は、昭和28年洪水の決壊箇所です。



明治29年の洪水



昭和22年の洪水



# 3. 生息環境の現状

## 3.1 河川環境の変化

### 【湧水(環境用水)】

かつて、多くの人々に利用されていた湧水が、近年、枯れつつあります。



出典『守山市誌』

# 3. 生息環境の現状

## 3.2 魚類の遡上

### 【落差工】





草津川

# 水質の現状把握

# 1. 草津川の水質の現状

## 1.1 草津川の水質の現状

### 【環境基準の類型指定 (草津市)】

草津市における環境基準

類型	BOD(mg/l) 生物化学的 酸素要求量	T-N(mg/l) 総窒素	T-P(mg/l) 総リン	感覚 一般的表現
AA	1以下	0.2以下	0.02以下	きれい
A	2以下	0.5以下	0.05以下	やや きれい
B	3以下	1.0以下	0.1以下	きれい
C	5以下	3.0以下	0.3以下	やや汚れている
D	8以下	4.0以下	0.4以下	汚れて いる
E	10以下	5.0以下	0.5以下	いる
類外	10を超える	5.0を超える	0.5を超える	たいへん汚れている

# 1. 草津川の水質の現状

## 1.1 草津川の水質の現状

### 【BOD(生活健康項目)】

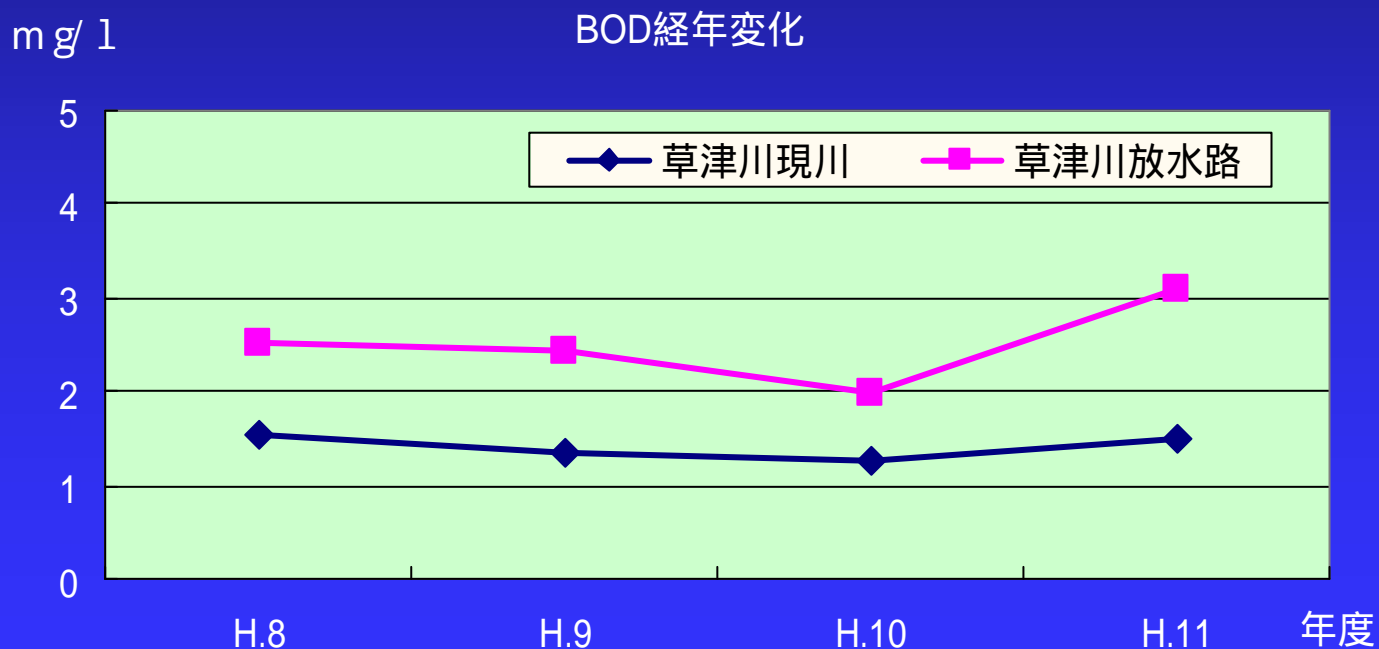
BODとは……

水中の比較的分解されやすい有機物が微生物によって分解される時に消費される酸素の量をいいます。  
BODが10mg/lで悪臭が発生します。

(悪化)



(良好)



草津川放水路の濃度が高いのは、伯母川及び北川の影響と考えられます。

# 1. 草津川の水質の現状

## 1.1 草津川の水質の現状

### 【T-N(生活健康項目)】

T-Nとは・・・

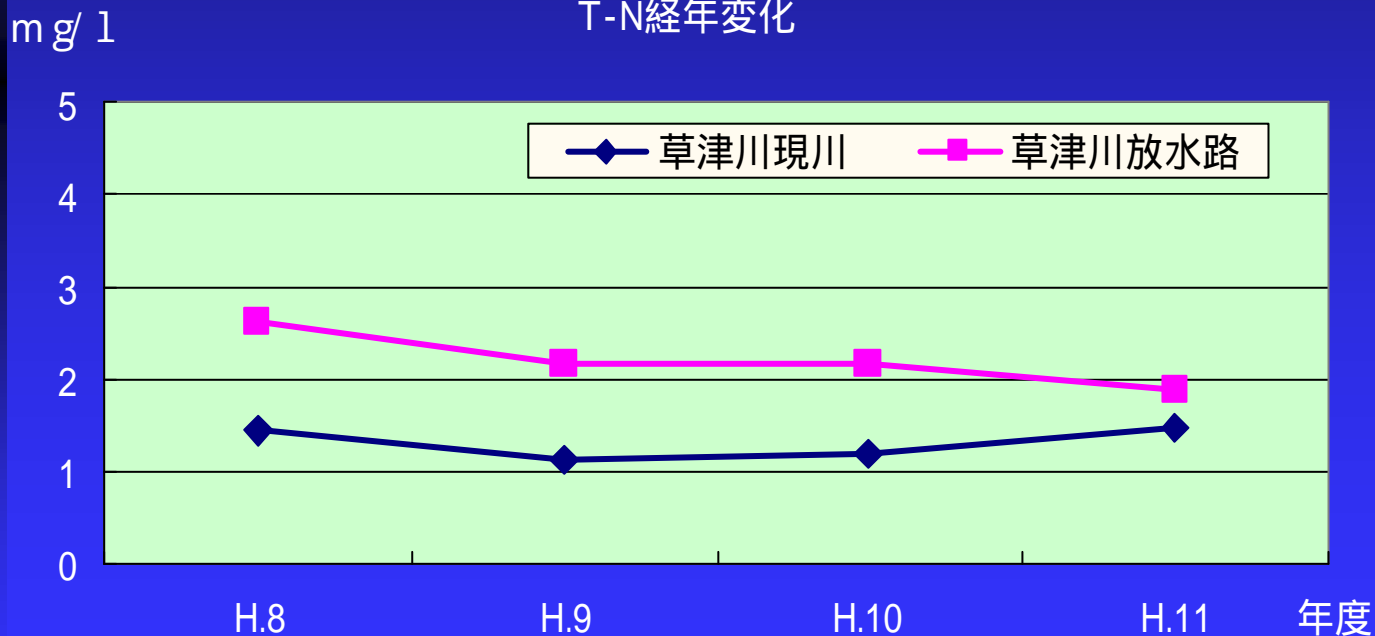
有機態と無機態の窒素を合わせたものをT-Nといいます。富栄養化の指標としてよく使われ、富栄養湖と貧栄養湖の境界は、0.15～0.2mg/l程度とされています。

T-N経年変化

(悪化)



(良好)



草津川放水路の濃度が高いのは、伯母川及び北川の影響と考えられます。

# 1. 草津川の水質の現状

## 1.1 草津川の水質の現状

### 【T-P(生活健康項目)】

T-Pとは・・・

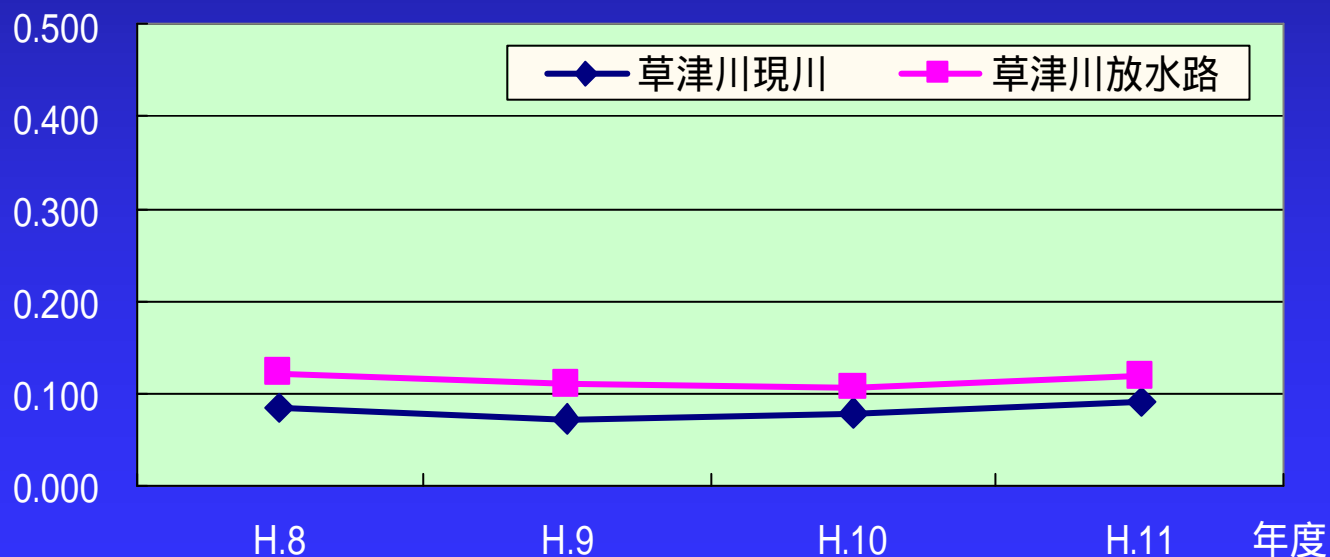
水中の全てのリン化合物を、強酸あるいは酸化剤で分解してオルトリン酸態リンとして定量したものです。湖沼の富栄養化の目安としては、0.02mg/l程度とされています。

(悪化)

(良好)

mg/l

T-P経年変化



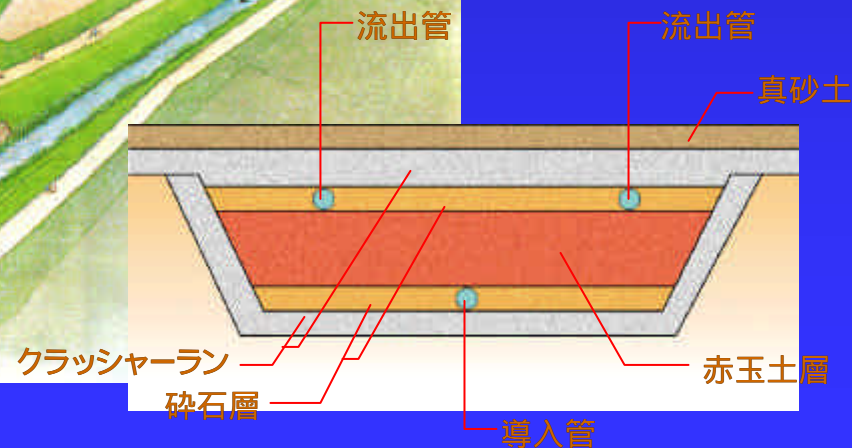
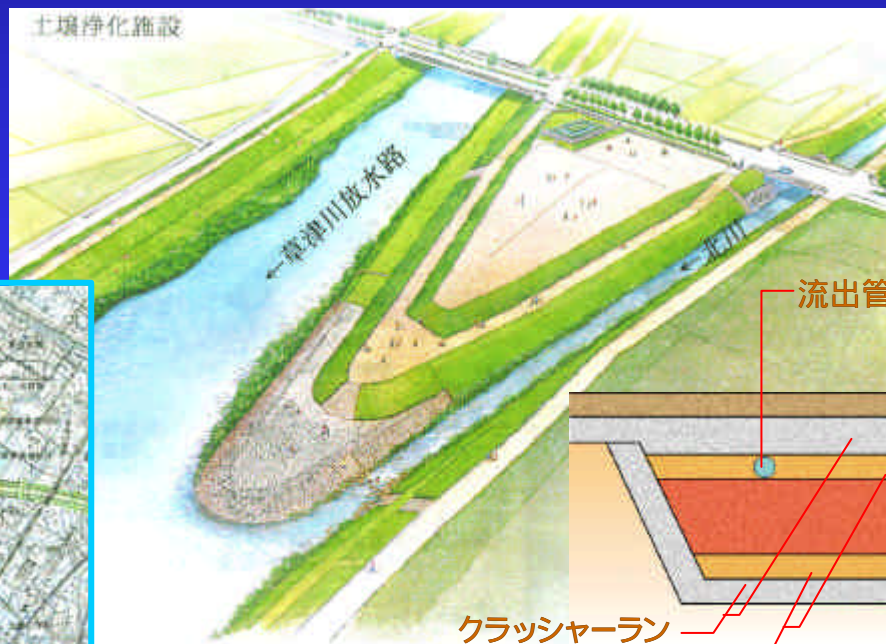
草津川放水路の濃度が高いのは、伯母川及び北川の影響と考えられます。

## 2. 浄化施設の整備状況

### 2.1 土壌浄化施設

#### 【草津川放水路浄化事業】

中間水路では、アオコが発生するなど、水質の悪化が懸念されています。これより、草津川放水路北川合流部において、プランクトンの増殖要因の一つとされるリンを除去する土壌浄化施設が整備されています。(平成12年度完成)



# 生物の現状把握



# 1. 生物の現状

## 1.1 草津川の特徴



本川（天井川・JRとの立体交差）

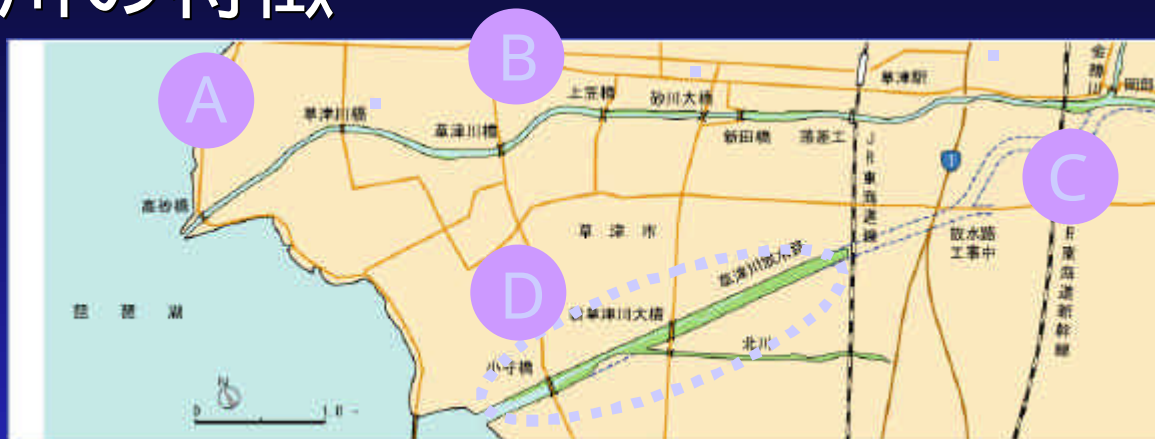


本川および放水路



# 1. 生物の現状

## 1.1 草津川の特徴



A

河口付近



- ・琵琶湖の入江状
- ・川幅狭いが、水際に湿生草地
- ・河床は砂、泥

B

砂川大橋付近



- ・河道は直線的
- ・湿生草地少なく、人工的要素強い
- ・河床は砂

C

落差工上流



- ・比較的川幅広く、寄り州が成立
- ・湿生草地が成立
- ・河床は砂

D

草津川放水路



- ・工事のため、裸地が大部分
- ・一部に植生成立
- ・河床は砂、泥

# 1. 生物の現状

## 1.2 魚類



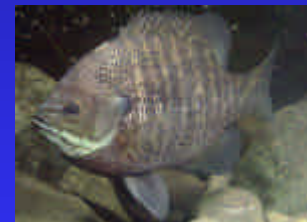
- ・ 全体としてブルーギルが多く、オイカワ、トウヨシノボリ、スゴモロコの確認数が多い



オイカワ



トウヨシノボリ



ブルーギル



スゴモロコ

- ・ 特定種



● メダカ

# 1. 生物の現状

## 1.3 底生動物

- ・ 全体的にミミズ類やユスリカ類、コカゲロウ類が多い



### A 河口付近

- ・ マシジミ
- ・ ミミズ類
- ・ トンボ類
- ・ ユスリカ類など

### B 砂川大橋付近

- ・ モノアラガイ
- ・ コカゲロウ類
- ・ などがみられるが、
- ・ 種類数は貧弱

### C 落差工上流

- ・ ヒメタニシ
- ・ モノアラガイ
- ・ コカゲロウ類
- ・ ユスリカ類など

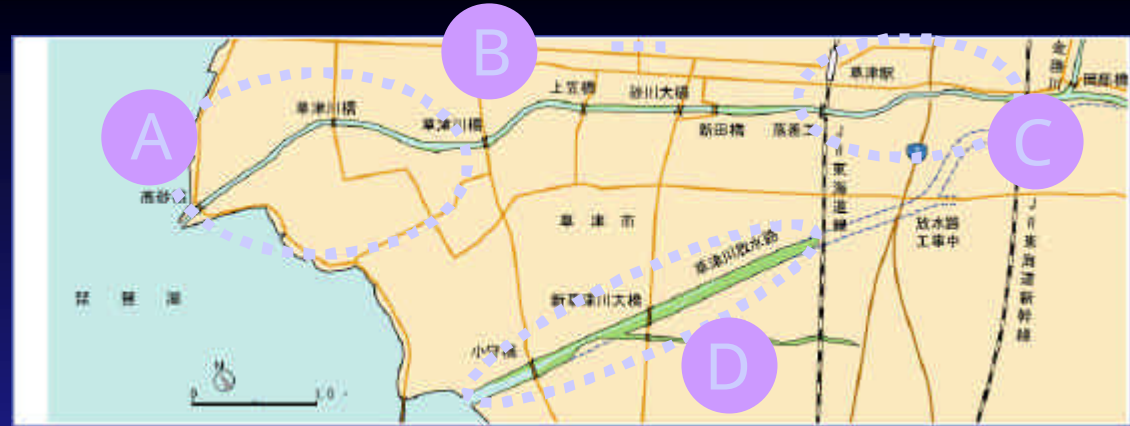
### ・ 特定種

- ゲンジボタル (幼虫)



# 1. 生物の現状

## 1.4 植物



### A 河口付近

- ・水際に小規模な湿生群落
- ツルヨシ、ガマ、マコモ等
- ・堤防付近は草地、竹林
- メヒシバ、アレチウリ、竹林等

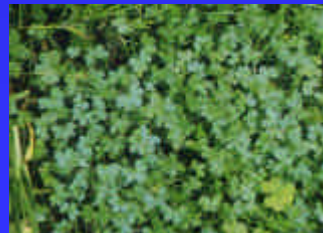
### ・特定種



カワヂシャ

### B 砂川大橋付近

- ・河道内の植生は貧弱
- 一部オオクサキビ、ナギタデ等
- ・堤防は乾生草地
- メヒシバ、クズ、セトカ
- アダン等



ヒメチドメ

### C 落差工上流

- ・川幅は比較的広く、河道内に湿生草地
- ツルヨシ、ミゾソバ等
- ・低水路護岸（蛇籠）上に土砂堆積し、植生化
- オオオナモミ、カナムグラ等
- ・高水敷上は乾生草地が成立

カラムシ、メヒシ



キンガヤツリ

### D 草津川放水路

- ・工事のため、大部分が裸地
- ・造成後の低水路に植生が徐々に侵入
- オオクサキビ、アマガズキバ等
- ・一部水際に抽水植物（ツルヨシ、マコモ）

# 1. 生物の現状

## 1.5 鳥類



### A 河口付近

- ・ 農耕地に囲まれた河口部
- カモ類
- カモメ類
- チドリ類
- タゲリ

### B 砂川大橋付近

### C 落差工上流

- ・ 都市部を貫流する区間
- キジバト
- ムクドリ
- スズメ
- ・ 堤防沿いの植栽木
- ヒヨドリ
- シジュウカラ

### D 草津川放水路

- ・ 広い開放水面の存在
- カンムリカイツブリ
- カモ類
- オオバン
- ・ 水際の湿生草地
- オオヨシキリ
- オオジュリン

# 1. 生物の現状

## 1.5 鳥類

### ・ 特定種



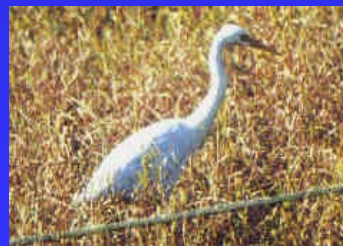
● カンムリカイツブリ



● タゲリ



● ハイタカ



● チュウサギ



● オオタカ



● チョウゲンボウ

# 1. 生物の現状

## 1.6 昆虫

- ・ 草地に依存する種が多く、コウチュウ目、チョウ目、カメムシ目が多い



### A 河口付近

- ・ 流量が少ないため、止水性のトンボ類が生息
- ・ マルカメムシ等の草地性の種が多く、コムラサキなどヤナギに依存する種などが生息

### B 砂川大橋付近

### C 落差工上流

- ・ 流量が少ないため、止水性のトンボ類が生息
- ・ 草地の種のほか、庭木や植栽木に依存する種がみられる

### ・ 特定種

● カンタン



● セグロアシナガバチ





# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(ほ乳類)

### ほ乳類

- **アブラコウモリ**  
河川内に広く分布
- **コウベモグラ**  
高水敷の草地、竹林に生息
- **ネズミ類**  
(ハツカネズミ、アカネズミ、カヤネズミ)  
高茎草地を中心に広く生息
- **イタチ属の一種**  
河川内に広く生息
- **タヌキ、キツネ**  
本川下流の竹林付近を中心に生息



アブラコウモリ



コウベモグラ



ハツカネズミ



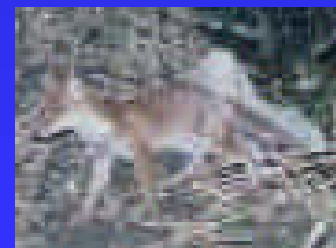
アカネズミ



カヤネズミ



タヌキ



キツネ

# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(両生類)

### 両生類

- ・ アマガエル  
水辺の草地、高木林、裸地、竹林等に広く分布
- ・ ニホンアカガエル  
堤防天端の草地にて確認。
- ・ トノサマガエル  
水辺の草地に広く分布
- ・ ウシガエル  
水域を中心に広く分布



アマガエル



ニホンアカガエル



トノサマガエル



ウシガエル

# 1. 生物の現状

## 1.7 小動物(は虫類)

### は虫類

- ・ カメ類 (イシガメ、クサガメ、ミシシippアカミミガメ)  
水域や水際の草地、裸地に生息
- ・ ヘビ類 (シマヘビ、アオダイショウ)  
草地や畑地、水際等に生息
- ・ カナヘビ  
草地を中心に広く分布



イシガメ



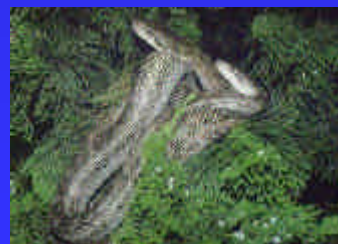
クサガメ



ミシシippアカミミガメ



シマヘビ



アオダイショウ



カナヘビ

## 2. 生息環境の現状

### 2.2 生息環境の現状



#### A 河口付近

琵琶湖の入江状を呈し、水際にツルヨシなど湿生草がみられます。堤防には乾生草地のほか竹林もみられます。

#### B 砂川大橋付近

低水路は直線的なコンクリート護岸です。川幅は狭く、高水敷は乾生草本や植栽木が生育しています。

#### C 落差工上流

川幅は広く、中洲がみられます。低水路には蛇籠が設置され、堆積した土砂上に植生がみられません。

#### D 草津川放水路

河口部は琵琶湖の入江状を呈し、小規模なツルヨシ群落などもみられます。

## 2. 生息環境の現状

### 2.1 河川環境の変化

現在の草津川は、平成14年に草津川放水路に付け替えられます。



生まれ変わる草津川放水路